

科目名	法学入門		教員名	阿波根 剛史	配当年次	1年
実務教員	—	実務教員の紹介				

1. 授業概要

これから様々な法律と向き合おうとする学生が、学修の出発点として必要な内容を修得することを目的とする。具体的には、法学という学問の基本的特徴、その全体像を把握すること、また公法、私法、刑事法の基礎知識を修得することを目指す。本講義は、大きく、法学入門、公法入門、刑事法入門、民事法入門の4分野から構成される。法学入門では、歴史や思想などにも触れつつ、法の役割や、法学という学問の位置づけについて解説する。また、法の解釈など、法学を学び始めるにあたって身に付けておくべき基礎にも言及する。さらに、それを踏まえ、公法、刑事法、民事法の各分野について解説する。各分野の基礎知識や考え方を説明するとともに、現代的な社会問題と法の関係についても触れる。講義では、基礎的知識の修得が中心となるが、課題等を通じ、法学系レポートの書き方や、資料収集の仕方なども同時に経験してもらう。

2. 授業計画

(1時限 50 分×授業回数 24 回 = 総授業時数 1200 分)

- 1 法学入門① 法とは何か
- 2 法学入門② 我が国の法源 ※ひとつの項目が1時限ということではないので念のため
- 3 法学入門③ 法の解釈 (1)
- 4 法学入門④ 法の解釈 (2)
- 5 公法入門① 公法の概要
- 6 公法入門② 人権
- 7 公法入門③ 統治
- 8 刑事法入門① 刑事法の概要
- 9 刑事法入門② 罪刑法定主義
- 10 刑事法入門③ 刑罰の正当性、犯罪概念の明確化
- 11 民事法入門① 私法の概要
- 12 民事法入門② 所有権
- 13 民事法入門③ 契約
- 14 民事法入門④ 過失責任

3. 評価方法

試験（科目試験またはスクーリング試験）により最終評価する。

4. テキスト・参考文献等（書名・著者名・出版社）

永井 和之・森 光（編）『法学入門』[第3版]以降（中央経済社）

5. その他・特記事項

オンデマンド法学入門に対応

科目名	憲法		教員名	阿波根 剛史	配当年次	1年
実務教員	—	実務教員の紹介				

1. 授業概要

憲法は、国の最高法規であり、あらゆる法規範の基礎にあるものです。しかし、憲法はまた、条文の数が限られ、その内容も抽象的なものが多いという事実があります。よく、「憲法は入りやすく、大成しがたい」と言われるのも、ここに理由があると思います。他の法律科目と同様、憲法にも憲法的なものの考え方があります。「憲法的思考方法」とでも言えばよいのでしょうか。憲法というルールを定めることによって国家権力を制限し、それによって一人ひとりの自由や権利を保護する、いわゆる「近代立憲主義」の考え方が「憲法的思考」の背景にあります。具体的な事件や裁判例を通じ、この「憲法的思考」を身につけ、憲法問題について自分なりに答えを出せるようにすることが、到達目標です。

2. 授業計画

(1時限 50 分×授業回数 57 回 = 総授業時数 2850 分)

- 1 憲法の特質と日本国憲法の基本原理
 - 2 人権という考え方
 - 3 裁判を受ける権利と司法制度
 - 4 表現の自由
 - 5 表現の自由の新しい展開（知る権利、報道の自由など）
 - 6 内心の自由と信教の自由・政教分離
 - 7 経済的自由
 - 8 社会権
 - 9 平等権
 - 10 幸福追求権
 - 11 人権と統治制度の架橋—選挙権
 - 12 改めて司法審査を考える
 - 13 憲法改正の意味と手続き
- ※ひとつの項目が1時限ということではないので念のため

3. 評価方法

試験（科目試験またはスクーリング試験）により最終評価する。

4. テキスト・参考文献等（書名・著者名・出版社）

工藤 達朗・畑尻 剛 他 『憲法』 [第5版] （不磨書房）

5. その他・特記事項

オンライン憲法に対応

科目名	国際政治史		教員名	阿波根 剛史	配当年次	1年
実務教員	—	実務教員の紹介				

1. 授業概要

近代に始まる国際関係の歴史を概観することを通して、現代国際社会の抱える複雑な課題について、自ら考え、自ら意見表明できる論理的思考能力を養成する。

有機的につながる主権国家と各々の国益が衝突するダイナミックな現代国際政治の背景を、歴史的に理解できるような材料をできるだけ多く提供し、特に後期の後半は、我が国を中心とする外交史を軸に、その当時の我が国の立場を視座に講義を展開する。そして「なぜ平和は崩壊したのか」「なぜ戦争を回避できなかったのか」ということを主体的に考えることにより、平和な国際社会を構築するための方策を考えさせる。

国際政治（外交）は、国際経済（貿易）、国内政治と密接にリンクしているので、その点にも留意しつつ、総合的に国際政治の流れを理解できるように構成する。

2. 授業計画

(1時限 50 分×授業回数 60 回＝総授業時数 3000 分)

1	国際政治とは何か	21	ウィーン体制の構築（2）
2	国際政治の拡張	22	ウィーン体制の構築（3）
3	ウェストファリア体制	23	ウィーン体制の構築（4）
4	ルイ14世と長い18世紀（1）	24	ウィーン体制の崩壊（1）
5	ルイ14世と長い18世紀（2）	25	ウィーン体制の崩壊（2）
6	ルイ14世と長い18世紀（3）	26	ウィーン体制の崩壊（3）
7	ロシアの膨張（1）	27	ウィーン体制の崩壊（4）
8	ロシアの膨張（2）	28	アメリカ南北戦争
9	ロシアの膨張（3）	29	ビスマルク体制（1）
10	オーストリアとプロイセン（1）	30	ビスマルク体制（2）
11	オーストリアとプロイセン（2）	31	ビスマルク体制（3）
12	オーストリアとプロイセン（3）	32	日清戦争と三国干渉
13	オーストリアとプロイセン（4）	33	日露戦争と日韓併合
14	英国の孤立とアメリカの誕生（1）	34	第一次世界大戦への道（1）
15	英国の孤立とアメリカの誕生（2）	35	第一次世界大戦への道（2）
16	フランス革命とナポレオン戦争（1）	36	戦間期の外交（1）
17	フランス革命とナポレオン戦争（2）	37	戦間期の外交（2）
18	フランス革命とナポレオン戦争（3）	38	第二次世界大戦
19	フランス革命とナポレオン戦争（4）	39	冷戦と新冷戦
20	ウィーン体制の構築（1）	40	筆記試験

3. 評価方法

前期：レポート

後期：筆記試験の予定

4. テキスト・参考文献等（書名・著者名・出版社）

書 名	著 者 名	出 版 社
オリジナルプリント 参考文献：近代ヨーロッパ国際政治史 参考文献：国際秩序 参考文献：国際関係史	君塚 直隆 H・キッシンジャー、伏見威蕃訳 義井 博	有斐閣(有斐閣コンパクト) 日本経済新聞出版 南窓社

5. その他・特記事項

科目名	社会科学Ⅰ (政経・現社)		教員名	阿波根 剛史	配当年次	1年
実務教員	—	実務教員の紹介				

1. 授業概要

政治・経済・現代社会・倫理の諸分野について、高校レベルの内容からスタートしてより高度なレベルへの橋渡しをするべく、授業を行います。
初級公務員試験に合格できるだけの実力をつけることを目標とします。

2. 授業計画

(1時限 50 分×授業回数 60 回 = 総授業時数 3000 分)

- | | | | |
|----|----------------------|----|----------------------------|
| 1 | 政治① 民主主義の基本原則と制度 | 15 | 時事問題① |
| 2 | 政治② 日本国憲法の基本原則と基本的人権 | 16 | 時事問題② |
| 3 | 政治③ 日本国憲法の統治機構 | 17 | 時事問題③ |
| 4 | 政治④ 政治の諸問題 | 18 | 最終試験 |
| 5 | 政治⑤ 国際政治 | | |
| 6 | 経済① 市場経済 | | ※ひとつの項目が1時限ということではないので念のため |
| 7 | 経済② 国民経済の流れ | | |
| 8 | 経済③ 日本経済の発展 | | |
| 9 | 経済④ 国際経済の動向と国際協力 | | |
| 10 | 社会① 労働問題と消費者問題 | | |
| 11 | 社会② 社会保障制度のあゆみ | | |
| 12 | 社会③ 人口問題 | | |
| 13 | 社会④ 地球環境問題 | | |
| 14 | 社会⑤ 現代社会と人間の特質 | | |

3. 評価方法

出席状況、授業態度とともに筆記試験で評価します。

4. テキスト・参考文献等 (書名・著者名・出版社)

オープンセサミシリーズ国家公務員・地方初級『政治・経済・社会』2022年度、東京アカデミー七賢出版

5. その他・特記事項

科目名	HR・課外授業Ⅰ		教員名	阿波根 剛史	配当年次	1年
実務教員	—	実務教員の紹介				

1. 授業概要

この時間は通常の授業とは別に、クラス会、スポーツ等のレクリエーション、その他学校行事や、ボランティア活動、本校OBによる公務員・就職講話などを想定している。ただし、コロナウイルスのまん延による社会活動の自粛・制限等によって実施できないことも多いと思われるので、臨機応変に対応していくつもりである。

2. 授業計画

(1時限 50 分×授業回数 30 回 = 総授業時数 1500 分)

1	本校入学にあたって	15	公務員・就職体験講話②
2	オリエンテーション①	16	レクリエーション④
3	オリエンテーション②	17	レクリエーション⑤
4	尚学院の建学精神について①	18	クラス会
5	尚学院の建学精神について②		
6	レクリエーション①		
7	レクリエーション②		
8	レクリエーション③		
9	振り返り作業①		
10	ボランティア活動①		
11	ボランティア活動②		
12	ボランティア活動③		
13	振り返り作業②		
14	公務員・就職体験講話①		

3. 評価方法

出席率、参加態度で評価します。

4. テキスト・参考文献等 (書名・著者名・出版社)

--

5. その他・特記事項

--

科目名	ビジネス実務法務検定		教員名	阿波根 剛史	配当年次	2年
実務教員	—	実務教員の紹介				

1. 授業概要

ビジネスパーソンが企業に所属し、ビジネス活動を日常的に進めるにあたり、法律の規定を意識することは少ない。しかし、普段はそれで問題なくても、トラブルが発生した場合や例外的な取り扱いが必要になった場合には、法律に対する理解や知識の有無で、適切な対応がとれるかどうかが決まってしまう。そこで、この授業では、法律の体系を示しつつ、ビジネスに関係する法律を取り上げ、その原理やポイントを実務に即して学んでいく予定である。

2. 授業計画

(1時限 50 分×授業回数 36 回＝総授業時数 1800 分)

1 回	ビジネス実務法務とは	1 6 回	企業財産の管理と法律
2 回	ビジネスを取り巻くリスクと法律のかかわり	1 7 回	企業の財産取得にかかわる法律
3 回	企業活動の根底にある法理念	1 8 回	取引に関する各種の規制
4 回	法律の基礎知識	1 9 回	ビジネスと犯罪
5 回	契約とは	2 0 回	法人と企業
6 回	契約の成立	2 1 回	会社のしくみ
7 回	契約成立後の法律関係	2 2 回	従業員の雇用と労働関係
8 回	売買以外の契約形態	2 3 回	職場内の男女雇用にかかわる問題
9 回	ビジネス文書の保存・管理	2 4 回	派遣労働における労働形態
1 0 回	契約によらない債権・債務の発生	2 5 回	取引と家族関係
1 1 回	通常の債権の管理	2 6 回	相続
1 2 回	取引の決済（手形・小切手等）		
1 3 回	債権の担保		
1 4 回	緊急時の債権回収		
1 5 回	企業の財産取得にかかわる法律		

3. 評価方法

検定試験結果 6 0 %、出席率・授業態度 4 0 %の予定

4. テキスト・参考文献等（書名・著者名・出版社）

『2023 ビジネス実務法務検定試験 公式テキスト 3 級』東京商工会議所編、中央経済社
『2023 ビジネス実務法務検定試験 公式問題集 3 級』東京商工会議所編、中央経済社

5. その他・特記事項

ビジネス実務法務検定3級合格をめざす。

科目名	HR・課外授業Ⅱ		教員名	阿波根 剛史	配当年次	2年
実務教員	—	実務教員の紹介				

1. 授業概要

この時間は通常の授業とは別に、クラス会、スポーツ等のレクリエーション、その他学校行事や、ボランティア活動、本校OBによる公務員・就職講話などを想定している。ただし、コロナウイルスのまん延による社会活動の自粛・制限等によって実施できないことも多いと思われるので、臨機応変に対応していくつもりである。

2. 授業計画

(1時限 50 分×授業回数 49 回 = 総授業時数 2450 分)

- | | | | |
|----|---------------|----|-------------|
| 1 | 2年次進学にあたって | 15 | 公務員・就職体験講話② |
| 2 | オリエンテーション① | 16 | レクリエーション④ |
| 3 | オリエンテーション② | 17 | レクリエーション⑤ |
| 4 | 尚学院の建学精神について① | 18 | クラス会 |
| 5 | 尚学院の建学精神について② | | |
| 6 | レクリエーション① | | |
| 7 | レクリエーション② | | |
| 8 | レクリエーション③ | | |
| 9 | 振り返り作業① | | |
| 10 | ボランティア活動① | | |
| 11 | ボランティア活動② | | |
| 12 | ボランティア活動③ | | |
| 13 | 振り返り作業② | | |
| 14 | 公務員・就職体験講話① | | |

3. 評価方法

出席率、参加態度で評価します。

4. テキスト・参考文献等 (書名・著者名・出版社)

5. その他・特記事項

科目名	法学入門		教員名	阿波根 剛史	配当年度	3年
実務教員	—	実務教員の紹介				

1. 授業概要

これから様々な法律と向き合おうとする学生が、学修の出発点として必要な内容を修得することを目的とする。具体的には、法学という学問の基本的特徴、その全体像を把握すること、また公法、私法、刑事法の基礎知識を修得することを目指す。本講義は、大きく、法学入門、公法入門、刑事法入門、民事法入門の4分野から構成される。法学入門では、歴史や思想などにも触れつつ、法の役割や、法学という学問の位置づけについて解説する。また、法の解釈など、法学を学び始めるにあたって身に付けておくべき基礎にも言及する。さらに、それを踏まえ、公法、刑事法、民事法の各分野について解説する。各分野の基礎知識や考え方を説明するとともに、現代的な社会問題と法の関係についても触れる。講義では、基礎的知識の修得が中心となるが、課題等を通じ、法学系レポートの書き方や、資料収集の仕方なども同時に経験してもらう。

2. 授業計画

(1時限 50 分×授業回数 24 回 = 総授業時数 1200 分)

- 法学入門① 法とは何か
- 法学入門② 我が国の法源 ※ひとつの項目が1時限ということではないので念のため
- 法学入門③ 法の解釈 (1)
- 法学入門④ 法の解釈 (2)
- 公法入門① 公法の概要
- 公法入門② 人権
- 公法入門③ 統治
- 刑事法入門① 刑事法の概要
- 刑事法入門② 罪刑法定主義
- 刑事法入門③ 刑罰の正当性、犯罪概念の明確化
- 民事法入門① 私法の概要
- 民事法入門② 所有権
- 民事法入門③ 契約
- 民事法入門④ 過失責任

3. 評価方法

試験 (科目試験またはスクーリング試験) により最終評価する。

4. テキスト・参考文献等 (書名・著者名・出版社)

永井 和之・森 光 (編) 『法学入門』 [第3版] (中央経済社)

5. その他・特記事項

オンデマンド法学入門に対応

科目名	憲法		教員名	阿波根 剛史	配当年次	3年
実務教員	—	実務教員の紹介				

1. 授業概要

憲法は、国の最高法規であり、あらゆる法規範の基礎にあるものです。しかし、憲法はまた、条文の数が限られ、その内容も抽象的なものが多いという事実があります。よく、「憲法は入りやすく、大成しがたい」と言われるのも、ここに理由があると思います。他の法律科目と同様、憲法にも憲法的なものの考え方があります。「憲法的思考方法」とでも言えばよいのでしょうか。憲法というルールを定めることによって国家権力を制限し、それによって一人ひとりの自由や権利を保護する、いわゆる「近代立憲主義」の考え方が「憲法的思考」の背景にあります。具体的な事件や裁判例を通じ、この「憲法的思考」を身につけ、憲法問題について自分なりに答えを出せるようにすることが、到達目標です。

2. 授業計画

(1時限 50 分×授業回数 54 回 = 総授業時数 2700 分)

- 1 憲法の特質と日本国憲法の基本原理
 - 2 人権という考え方
 - 3 裁判を受ける権利と司法制度
 - 4 表現の自由
 - 5 表現の自由の新しい展開（知る権利、報道の自由など）
 - 6 内心の自由と信教の自由・政教分離
 - 7 経済的自由
 - 8 社会権
 - 9 平等権
 - 10 幸福追求権
 - 11 人権と統治制度の架橋—選挙権
 - 12 改めて司法審査を考える
 - 13 憲法改正の意味と手続き
- ※ひとつの項目が1時限ということではないので念のため

3. 評価方法

試験（科目試験またはスクーリング試験）により最終評価します。

4. テキスト・参考文献等（書名・著者名・出版社）

工藤 達朗・畑尻 剛 他 『憲法』 [第5版] （不磨書房）

5. その他・特記事項

オンデマンド憲法に対応

科目名	行政法 1		教員名	阿波根 剛史	配当年次	3年
実務教員	—	実務教員の紹介				

1. 授業概要

行政法の基本的なしくみや考え方を理解すること、特に法治主義や法律による行政の原理の意味及びその実現のためのしくみを理解することが、この科目の授業の目的です。また、行政法のしくみや考え方の基礎について理解ができること、特に社会において生じる様々な問題や紛争を行政法の視点から分析し、解決の方向性を見つけ出すことができるようになることが、この科目の授業の到達目標です。

2. 授業計画

(1時限 50 分×授業回数 57 回 = 総授業時数 2850 分)

- 1 行政法とはいかなる法分野か
- 2 法治主義と法律による行政の原理
- 3 行政法規範の多様性
- 4 行政行為
- 5 行政の実効性確保
- 6 非権力的な行政活動
- 7 行政活動と情報
- 8 手続法的コントロール
- 9 実体法的コントロール
- 10 組織法的コントロール

※ひとつの項目が1時限ということではないので念のため

3. 評価方法

試験（科目試験またはスクーリング試験）により最終評価します。

4. テキスト・参考文献等（書名・著者名・出版社）

曾和 俊文・山田 洋 他『現代行政法入門』〔第3版〕以降（有斐閣）

5. その他・特記事項

オンデマンド行政法1に対応

科目名	行政法 2		教員名	阿波根 剛史	配当年次	3年
実務教員	—	実務教員の紹介				

1. 授業概要

行政救済法は、国や地方公共団体等の誤った諸活動等によって自己の権利や法律上の利益を害され又は害されるおそれのある者が、いかなる法的な手段や方法によって自己の権利や法律上の利益の救済を受けることができるかを明らかにするための法分野です。この科目の受講を通じて、受講生の皆さんは、国や地方公共団体等の誤った諸活動によって自己の権利や法律上の利益を害されたと考えたときに、又は害されるおそれがあると考えたときに、どのような法的な手段や方法を用いて自己の権利や法律上の利益を回復し又は守ることができるかについて、理解することができるようになるでしょう。これが、この科目を受講する皆さんにとっての到達目標です。

2. 授業計画

(1時限 50 分×授業回数 60 回 = 総授業時数 3000 分)

- 1 行政訴訟法の全体像
- 2 取消訴訟の対象
- 3 取消訴訟の原告適格と訴えの利益
- 4 取消訴訟のプロセス
- 5 取消訴訟以外の抗告訴訟
- 6 抗告訴訟以外の行政訴訟
- 7 行政上の不服申立制度
- 8 公権力の行使に関する賠償
- 9 映像物の瑕疵に関する賠償
- 10 損失補償

※ひとつの項目が1時限ということではないので念のため

3. 評価方法

試験（科目試験またはスクーリング試験）により最終評価します。

4. テキスト・参考文献等（書名・著者名・出版社）

曾和 俊文・山田 洋 他『現代行政法入門』[第3版]以降（有斐閣）

5. その他・特記事項

オンデマンド行政法2に対応

科目名	公務員試験対策Ⅲ (政治学)		教員名	阿波根 剛史	配当年次	3年
実務教員	—	実務教員の紹介				

1. 授業概要

政治学について基礎から学んでいきます。1, 2年での公民や現代社会と重なる部分もありますが、さらに内容が高度になっていますので、サブテキストを用いながら授業を行っていきます。この授業の到達目標は、大卒程度の公務員試験科目である政治学の基礎を養い理解を深めること、になります。

2. 授業計画 (1時限 50 分×授業回数 30 回 = 総授業時数 1500 分)

- | | | | |
|----|-----------|----|------|
| 1 | 政治学の基礎事項 | 14 | 演習 |
| 2 | 行政の組織① | 15 | 最終試験 |
| 3 | 行政の組織② | | |
| 4 | 政治の動態 | | |
| 5 | 政治の意識と行動① | | |
| 6 | 政治の意識と行動② | | |
| 7 | 政治の思想 | | |
| 8 | 政治の理論① | | |
| 9 | 政治の理論② | | |
| 10 | 政治の歴史① | | |
| 11 | 政治の歴史② | | |
| 12 | まとめ① | | |
| 13 | まとめ② | | |

3. 評価方法

出席率、受講態度、および試験で総合評価を行います。

4. テキスト・参考文献等 (書名・著者名・出版社)

- ・『大卒程度公務員試験準拠テキスト 政治学』東京アカデミー
- ・サブテキスト

5. その他・特記事項

科目名	HR・課外授業Ⅲ		教員名	阿波根 剛史	配当年次	3年
実務教員	—	実務教員の紹介				

1. 授業概要

この時間は通常の授業とは別に、クラス会、スポーツ等のレクリエーション、その他学校行事や、ボランティア活動、本校OBによる公務員・就職講話などを想定している。ただし、コロナウイルスのまん延による社会活動の自粛・制限等によって実施できないことも多いと思われるので、臨機応変に対応していくつもりである。

2. 授業計画

(1時限 50 分×授業回数 30 回 = 総授業時数 1500 分)

- | | | | |
|----|---------------|----|-------------|
| 1 | 3年次進学にあたって | 15 | 公務員・就職体験講話② |
| 2 | オリエンテーション① | 16 | レクリエーション④ |
| 3 | オリエンテーション② | 17 | レクリエーション⑤ |
| 4 | 尚学院の建学精神について① | 18 | クラス会 |
| 5 | 尚学院の建学精神について② | | |
| 6 | レクリエーション① | | |
| 7 | レクリエーション② | | |
| 8 | レクリエーション③ | | |
| 9 | 振り返り作業① | | |
| 10 | ボランティア活動① | | |
| 11 | ボランティア活動② | | |
| 12 | ボランティア活動③ | | |
| 13 | 振り返り作業② | | |
| 14 | 公務員・就職体験講話① | | |

3. 評価方法

出席率、参加態度で評価します。

4. テキスト・参考文献等 (書名・著者名・出版社)

5. その他・特記事項

科目名	公務員試験対策 (政治学)		教員名	阿波根 剛史	配当年次	4年
実務教員	—	実務教員の紹介				

1. 授業概要

政治学について基礎から学んでいきます。1, 2年での公民や現代社会と重なる部分もありますが、さらに内容が高度になっていますので、サブテキストを用いながら授業を行っていきます。この授業の到達目標は、大卒程度の公務員試験科目である政治学の基礎を養い理解を深めること、になります。

2. 授業計画 (1時限 50 分×授業回数 30 回 = 総授業時数 1500 分)

- | | | | |
|----|-----------|----|------|
| 1 | 政治学の基礎事項 | 14 | 演習 |
| 2 | 行政の組織① | 15 | 最終試験 |
| 3 | 行政の組織② | | |
| 4 | 政治の動態 | | |
| 5 | 政治の意識と行動① | | |
| 6 | 政治の意識と行動② | | |
| 7 | 政治の思想 | | |
| 8 | 政治の理論① | | |
| 9 | 政治の理論② | | |
| 10 | 政治の歴史① | | |
| 11 | 政治の歴史② | | |
| 12 | まとめ① | | |
| 13 | まとめ② | | |

3. 評価方法

出席率、受講態度、および試験で総合評価を行います。

4. テキスト・参考文献等 (書名・著者名・出版社)

- ・『大卒程度公務員試験準拠テキスト 政治学』東京アカデミー
- ・サブテキスト

5. その他・特記事項

科目名	HR・課外授業Ⅳ		教員名	阿波根 剛史	配当年次	4年
実務教員	—	実務教員の紹介				

1. 授業概要

この時間は通常の授業とは別に、クラス会、スポーツ等のレクリエーション、その他学校行事や、ボランティア活動、本校OBによる公務員・就職講話などを想定している。ただし、コロナウイルスのまん延による社会活動の自粛・制限等によって実施できないことも多いと思われるので、臨機応変に対応していくつもりである。

2. 授業計画

(1時限 50 分×授業回数 49 回 = 総授業時数 2450 分)

- | | | | |
|----|---------------|----|-------------|
| 1 | 4年次進学にあたって | 15 | 公務員・就職体験講話② |
| 2 | オリエンテーション① | 16 | レクリエーション④ |
| 3 | オリエンテーション② | 17 | レクリエーション⑤ |
| 4 | 尚学院の建学精神について① | 18 | クラス会 |
| 5 | 尚学院の建学精神について② | | |
| 6 | レクリエーション① | | |
| 7 | レクリエーション② | | |
| 8 | レクリエーション③ | | |
| 9 | 振り返り作業① | | |
| 10 | 自主研究① | | |
| 11 | 自主研究② | | |
| 12 | 自主研究③ | | |
| 13 | 振り返り作業② | | |
| 14 | 公務員・就職体験講話① | | |

3. 評価方法

出席率、参加態度で評価します。

4. テキスト・参考文献等 (書名・著者名・出版社)

5. その他・特記事項

科目名	民法 1 （総則）		教員名	丸野 智香	配当年次	1年
実務教員	—	実務教員の紹介				

1. 授業概要

民法の導入科目として、民法の全体像を理解するとともに、民法総則（1条～174条）に関する諸制度、各条文の理解を深めることを目的とする。民法の全体構造、民法の原則、権利義務の主体・客体、法律行為、事項を中心に解説する。

2. 授業計画

（1時限 50 分×授業回数 54 回＝総授業時数 2700 分）

以下の項目について、順に説明をしていく。

- (1) 民法の全体構造の概観
- (2) 権利義務の主体としての「自然人」
- (3) 権利義務の客体としての「物」
- (4) 法律行為総説
- (5) 意思表示
- (6) 無効と取消し
- (7) 代理
- (8) 法人
- (9) 時効

3. 評価方法

科目試験により最終評価

4. テキスト・参考文献等（書名・著者名・出版社）

基本的にレジュメを用いる。

- ・遠藤研一郎『基本テキスト 民法総則』〔第2版〕（2020年）中央経済社
- ・潮見佳男・道垣内弘人（編）『民法判例百選Ⅰ 総則・物権』〔第8版〕（2018年）有斐閣

5. その他・特記事項

科目名	刑法各論		教員名	丸野 智香	配当年次	2年
実務教員	—	実務教員の紹介				

1. 授業概要

1. 刑法各論の中心は、個々の条文の意義・射程を、解釈という手法を用いて、明らかにしていくところにある。したがって、本講座では、条文を一つ一つ取り上げていき、当該条文がどのような目的で存在するのか、その条文にはどのような特徴があるか、その条文を構成する文言はいかなる意味に解釈されるべきか、他の条文との関係性はどうか等について、複数の視点から検討を加えていく。
2. 刑法各論における考察の対象としては、「個人の法益に対する罪」、「社会や公益に対する罪」、「国家の法益に対する罪」があるが、「個人の法益

2. 授業計画

(1時限 50 分×授業回数 54 回 = 総授業時数 2700 分)

第1回：生命・身体に対する罪①
第2回：生命・身体に対する罪②
第3回：生命・身体に対する罪③
第4回：生命・身体に対する罪④
第5回：自由・私生活の平穏に対する罪①
第6回：自由・私生活の平穏に対する罪②
第7回：名誉に対する罪①
第8回：名誉に対する罪②
第9回：財産に対する罪①
第10回：財産に対する罪②
第11回：財産に対する罪③
第12回：財産に対する罪④
第13回：公共危険罪①
第14回：公共危険罪②

3. 評価方法

科目試験により最終評価。

4. テキスト・参考文献等（書名・著者名・出版社）

レジュメを用いる。
井田良『入門刑法学・各論』〔第2版〕（2018年）有斐閣
島伸一・山本輝之他『たのしい刑法Ⅱ 各論』（2017年）弘文堂
立石二六（編著）『刑法事例30講』（2013年）成文堂

5. その他・特記事項

科目名	刑法総論		教員名	丸野 智香	配当年次	2年
実務教員	—	実務教員の紹介				

1. 授業概要

刑法総論の解釈学は非常に体系立てられた学問であり、各教科書の記述はその体系に沿ったものとなっている。そのため、学習においては、刑法の基礎→構成要件論→違法論→責任論→未遂論→共犯論→罪数論、といったように段階的に知識を積み重ねていくことが求められる。したがって、まずはじめに刑法の意義と機能、刑法の諸原則などを概観することを通して履修者の皆さんそれぞれにおいて「刑法」あるいは「刑事法」というものをイメージできるようにしていきたいと考えており、その後、違法論、責任論といった解釈上の重要問題や、また、未遂、共犯、罪数といった、いわば犯罪論の応用問題へと

2. 授業計画

(1時限 50 分×授業回数 21 回 = 総授業時数 1050 分)

1単元：刑法の基礎
2単元：刑法理論と指導原理
3単元：犯罪－犯罪論、構成要件論（構成要件該当性、不作為犯論）
4単元：犯罪－構成要件論（因果関係）
5単元：犯罪－違法論（違法性の概念、違法性阻却事由の本質・分類、正当行為）
6単元：犯罪－違法論（正当防衛、緊急避難）
7単元：犯罪－責任論（責任の概念、責任能力、原因において自由な行為、（構成要件の）故意）
8単元：犯罪－責任論（（構成要件の）故意、（責任）故意、（構成要件の）過失）
9単元：犯罪－未遂犯論（総説、狭義の未遂犯、不能犯、中止犯）
10単元：犯罪－共犯論（共犯の基本概念、共同正犯、教唆犯、従犯）
11単元：犯罪－共犯論（共犯と身分、不作為と共犯、共犯と錯誤、共犯と中止犯、共犯関係からの離脱）、罪数論・競合論

3. 評価方法

科目試験により最終評価。

4. テキスト・参考文献等（書名・著者名・出版社）

レジュメを用いる。
只木誠『コンパクト刑法総論』（2018年）新世社
只木誠『コンパクト刑法各論』（2022年）新世社
只木誠他『刑法ポケット判例集』（2019年）弘文堂

5. その他・特記事項

科目名	民法4（債権各論）		教員名	丸野 智香	配当年次	3年
実務教員	—	実務教員の紹介				

1. 授業概要

債権各論は債権の発生原因について規律されています。それらは、契約、事務管理、不当利得および不法行為です。これらのうち、契約と不法行為を中心として授業を行います。

各制度について、具体例を想定しつつ、その立法趣旨を踏まえ、重要な要件効果を中心として進めます。その場合、他の制度との関係、重要な基本判例にも触れつつ、法会社の具体的な内容を示すことに努めます。また、契約法については、改正民法について、これまでの制度を踏まえ、何が、なぜ、どのよ

2. 授業計画 (1時限 50 分×授業回数 60 回 = 総授業時数 3000 分)

1. 債権各論の位置づけ、債権各論の概要
2. 契約総論（1）契約の意義、分類
3. 契約総論（2）契約の成立、提携約款による契約
4. 契約総論（3）契約の効力、契約の解除
5. 売買（1）意義、手付
6. 売買（2）売買の効力一般、売主の契約不適合責任
7. 売買（3）目的物の滅失等に関する危険の移転
8. 賃貸借（1）意義、存続期間、短期賃貸借
9. 賃貸借（2）賃貸借の効力、賃貸借の終了
10. 賃貸借（3）賃貸借の譲渡、賃借物の転貸
11. 不法行為の概要—意義、異本原則

3. 評価方法

科目試験により最終評価。

4. テキスト・参考文献等（書名・著者名・出版社）

配布用プリントによる。

原田剛『債権各論講義』（2021年）成文堂

筒井建夫・村松秀樹編著『一問一答民法（債権関係）改正』（2018年）商事法務

5. その他・特記事項

科目名	商法（総論・総則）		教員名	丸野 智香	配当年次	3年
実務教員	—	実務教員の紹介				

1. 授業概要

この授業科目は、伝統的に実定法に即していえば、商法総論・総則、社会法総則・雑則等を対象とし、現代的にいえば、企業法総論・企業組織法総論を内容としている。本講義では、まず、企業法としての商法の全体像を理解することから始めて、次いで、「商法」総則編と「会社法」総則等に定められた諸原則と諸制度を解説する。

2. 授業計画

(1時限 50 分×授業回数 42 回 = 総授業時数 2100 分)

商法総論
第1単元 商法入門
第2単元 経済社会における企業と法
第3単元 商法の意義と地位
第4単元 商法の体系と特色
第5単元 商法の方言と商法典の適用範囲
第6単元 商法の形成と現代的展開
商法総論・会社法総則等
第7単元 企業の主体（1）商人と商行為
第8単元 企業の主体（2）商人資格と営業能力
第9単元 企業の物的設備（1）営業（事業）・営業所（事業所）と商号
第10単元 企業の物的設備（2）商号の法規制と名板貸責任
第11単元 企業の物的設備（3）企業会計と法、商業帳簿
第12単元 企業の補助者（1）商法・会社法上の企業補助者、支配人
第13単元 企業の補助者（2）支配人以外の使用人、代理商
第14単元 企業の公示方法：企業登記
第15単元 企業の移転・担保：営業譲渡・事業譲渡ほか

3. 評価方法

科目試験により最終評価。

4. テキスト・参考文献等（書名・著者名・出版社）

レジュメを用いる
福原紀彦『企業法総論・総則 商法〔総論・総則〕・会社法総則等』〔第2版〕（2020年）文真堂

5. その他・特記事項

科目名	模擬試験Ⅱ		教員名	識名 昇	配当年次	2年
実務教員	—	実務教員の紹介				

1. 授業概要

公務員採用試験対策模擬試験監督

2. 授業計画

(1時限 50 分×授業回数 42 回 = 総授業時数 2100 分)

東京アカデミー公務員対策模擬試験

その他

3. 評価方法

模擬試験の成績をもとに出席状況等を加味し秀 優 良 可 不可で評価する。

4. テキスト・参考文献等 (書名・著者名・出版社)

5. その他・特記事項

科目名	心理学		教員名	新川 涼子	配当年次	1年
実務教員	—	実務教員の紹介				

1. 授業概要

一般的に「心理学」という言葉からイメージされるものと学問としての心理学には大きな差異があります。本講義では「心理学の成り立ち」と「人の心の基本的な仕組み及び働き」を学びます。

具体的には、心理学の歴史、感覚、知覚、学習、記憶、言語、思考、欲求、感情、性格、知能、発達、社会の各領域の理論および研究について学びます。心理学の基礎知識を学ぶことで、人間の様々な心理的機能について理解を深め、他人や自分の行動についての洞察力を養います。

2. 授業計画

(1時限 50 分×授業回数 60 回＝総授業時数 3000 分)

1	心理学とは何か（その観点と接近法）、心理学の研究法	31	思考・言語：コミュニケーション（言語的・非言語的）
2	心理学の歴史 1	32	思考・言語：言語の特性、脳損傷と高次機能の障害
3	行動：行動の水準、感覚的行動	33	動機付け：食と性の動機づけ、基本的情動
4	行動：行動の水準、感覚的行動、習得的行動	34	動機付け：親和動機づけ、活動と探索の動機付け
5	行動：シンボル機能と発達レベル、遅延反応、シンボル機能と記号行動	35	動機付け：達成と自己実現の動機づけ
6	行動：子どもの遅延反応テスト、三角形の概念	36	動機付け：葛藤 個人差：知能の測定、知能の因子
7	行動：思考・自己調整の道具としての言語	37	自己：パーソナリティ理論、パーソナリティの測定
8	行動：意識の行動学的視点	38	自己：自己の評価と機能
9	行動：シンボル機能と対象物の永続性、自己意識と自己鏡映像認知	39	個人差：知能発達の要因、性格、パーソナリティ発達の要因
10	行動：意識の発生段階、他者の心についての推量	40	個人差：パーソナリティの不適応・障害
11	発達：行動発達を規定する要因（遺伝と環境）、発達の变化（分化と統合）	41	社会行動：社会行動の発達、社会的認知
12	発達：発達の变化（量的変化、質的变化）	42	社会行動：態度と説得、社会的影響、
13	発達：発達の变化（刷り込みと初期経験、知覚と認知過程の初期経験）	43	社会行動：対人魅力と対人関係
14	発達：青年のアイデンティティの成り立ち、成人の危機	44	社会行動：集団の中の個人、社会脳
15	発達：高齢者を支える人間関係	45	レポート課題提示、資料検索
16	レポート課題提示、レポートの作成方法、文献の調べ方、	46	後期 中間試験
17	前期 中間試験	47	ストレスと適応：日常生活におけるストレスとその歴史的経緯
18	学習・記憶：条件づけ（古典的条件付け、オペラント条件付け）	48	ストレスと適応：ストレス研究の進展、周辺領域への影響
19	学習・記憶：技能学習の段階、技能学習の転移	49	社会心理学：社会的状況の力、他者存在の心理
20	学習・記憶：社会的学習（模倣の学習、観察の学習）	50	社会心理学：社会的影響とその理論的説明、情動と社会行動
21	学習・記憶：記憶の過程、感覚記憶、短期記憶、長期記憶	51	インターネット依存・ゲーム依存について考える
22	学習・記憶：学習・記憶のメカニズム	52	認知心理学：情報処理パラダイム、注意
23	感覚・知覚：ものを感じる仕組み、視覚系の仕組み	53	認知心理学：言語、心的イメージ、思考
24	感覚・知覚：聴覚系の仕組み、形を知覚する	54	認知心理学：使いやすさの認知科学、家の中の認知科学
25	感覚・知覚：音の知覚・知覚に及ぼす注意の影響	55	心の病態：異常とは何か、知覚の異常
26	思考・言語：問題解決と試行錯誤、洞察による問題解決	56	心の病態：思考・知能の異常、記憶の異常、異常心理の理解
27	思考・言語：問題解決と認知発達	57	臨床心理1
28	思考・言語：概念の学習・達成、イメージ	58	臨床心理2
29	思考・言語：推論の促進と妨害、推論の方法、発見の様相	59	後期 期末試験
30	前期 期末試験	60	総復習

3. 評価方法

出席10%、レポートⅠ10%、レポートⅡ10%、前半まとめ試験35%、後半まとめ試験35%

4. テキスト・参考文献等（書名・著者名・出版社）

書 名	著 者 名	出 版 社
心理学 第5版 補訂版	鹿取廣人・杉本敏夫・鳥居修晃・河内十郎 編	東京大学出版会

5. その他・特記事項

参考書

よくわかる心理学、無藤隆 他、ミネルヴァ書房、3,000円（税別）

科目名	課題処理 I		教員名	新川 涼子	配当年次	1年
実務教員	—	実務教員の紹介				

1. 授業概要

公務員試験で出題される課題処理について基本を学習します。
 課題処理は高校までにならった数学とも少し違う分野です、分野ごとの解法を学習し、基本問題、演習問題を解き、短い時間で解答を求められるようにしましょう。

2. 授業計画

(1時限 50 分×授業回数 30 回＝総授業時数 1500 分)

1	1章 命題・論理 例題 基本問題	16	類推 確認テスト		
2	1章 基本問題、演習問題	17	6章 対応関係 (4) 嘘つき問題 例題 基本問題		
3	1章 演習問題	18	6章 基本問題、演習問題		
4	命題・論理 確認テスト	19	6章 演習問題		
5	3章 対応関係 (1) 勝敗 例題 基本問題	20	嘘つき問題 確認テスト		
6	3章 基本問題、演習問題	21	7章 順位・順序 (1) 序列・大小 例題 基本問題		
7	3章 演習問題	22	7章 基本問題、演習問題		
8	勝敗 確認テスト	23	7章 演習問題		
9	4章 対応関係 (2) 対応 例題 基本問題	24	順序 大小 確認テスト		
10	4章 基本問題、演習問題	25	8章 順位・順序 (2) 数値 例題 基本問題		
11	4章 演習問題	26	8章 基本問題、演習問題		
12	対応 確認テスト	27	8章 演習問題		
13	5章 対応関係 (3) 類推 例題 基本問題	28	順序 数値 確認テスト		
14	5章 基本問題、演習問題	29	10章 位置 例題 基本問題		
15	5章 演習問題	30	10章 基本問題、演習問題		

3. 評価方法

単元ごとの確認テストの合算点

4. テキスト・参考文献等 (書名・著者名・出版社)

TAC出版 地方初級・国家一般職(高卒者)テキスト 判断推理・資料解釈 第3版、TAC出版編集部 編著、TAC出版

5. その他・特記事項

科目名	資料解釈 I		教員名	新川 涼子	配当年次	1年
実務教員	—	実務教員の紹介				

1. 授業概要

公務員試験で出題される資料解釈について基本を学習します。
 資料解釈は基本的な四則演算の計算能力と数字やグラフから情報を読み取る能力を試す問題です。
 頻出分野の問題を短い時間で解答できるように練習を重ねましょう。

2. 授業計画

(1時限 50 分×授業回数 30 回＝総授業時数 1500 分)

1	1章 実数の計算 例題1～3	16	4章 指数 例題4 演習問題
2	1章 基本の計算問題 練習1	17	4章 演習問題
3	1章 基本の計算問題 例題4 演習問題	18	4章 演習問題
4	1章 練習問題	19	4章 演習問題
5	2章 構成比 例題1 演習問題	20	5章 特殊なグラフ 例題 演習問題
6	2章 演習問題	21	5章 演習問題
7	2章 演習問題	22	後期 中間試験
8	前期 中間試験	23	出たDATA 表問題、グラフ問題
9	2章 演習問題	24	出たDATA 表問題、グラフ問題
10	3章 増減率 例題 演習問題	25	出たDATA 表問題、グラフ問題
11	3章 演習問題	26	出たDATA 表問題、グラフ問題
12	3章 演習問題	27	出たDATA 表問題、グラフ問題
13	3章 演習問題	28	出たDATA 表問題、グラフ問題
14	4章 指数 例題1～3	29	出たDATA 表問題、グラフ問題
15	前期 期末試験	30	後期 期末試験

3. 評価方法

--

4. テキスト・参考文献等 (書名・著者名・出版社)

TAC出版 地方初級・国家一般職(高卒者)テキスト 判断推理・資料解釈 第3版、TAC出版編集部 編著、TAC出版

5. その他・特記事項

--

科目名	情報リテラシー1 (Word)		教員名	新川 涼子	配当年度	1年
実務教員	○	実務教員の紹介	過去の研究では音感教育アプリをC++を使ってプログラミングしていました。現在の研究では、小学校教員志望の学生さんにScratch（プログラミング）を授業で活用してもらうための手法を研究しています。質問紙調査の解析にはExcelの分散分析などの機能も活用しています。教務においてはExcelVBAを活用し、個別成績票へのデータの転記などに用いています。			

1. 授業概要

Windowsの基本操作、タッチタイピング、ビジネス文書の基礎から応用までの技能を学習します。
Word文書処理技能認定試験3級の取得を目指します。

2. 授業計画

(1時限 50 分×授業回数 30 回 = 総授業時数 1500 分)

1	タイピング練習	16	Word3級 練習問題2
2	タイピング練習	17	Word3級 練習問題2
3	ビジネス文書の基本 ページ設定、文字編集	18	Word3級 練習問題3
4	演習問題	19	Word3級 練習問題3
5	表入りビジネス文書	20	Word3級 模擬問題1
6	練習問題	21	Word3級 模擬問題1
7	画像の挿入、タブとリーダー	22	Word3級 模擬問題2
8	練習問題	23	Word3級 模擬問題2
9	印刷設定、その他高度な設定	24	Word3級 模擬問題3
10	練習問題	25	Word3級 模擬問題3
11	はがきの作成	26	Word3級 模擬問題4
12	差し込み印刷	27	Word3級 模擬問題5
13	練習問題	28	Word3級 模擬問題6
14	Word3級 練習問題1	29	Word3級 模擬問題7 検定リハーサル
15	Word3級 練習問題1	30	Word文書処理技能認定試験3級 検定実施

3. 評価方法

毎回の授業時の課題30%、検定の試験点数70%

4. テキスト・参考文献等（書名・著者名・出版社）

Word文書処理技能認定試験 3級問題集(2019対応)、編著：サーティファイソフトウェア活用能力認定委員会、発行：サーティファイ

5. その他・特記事項

タイピングが苦手な人は、自宅などで練習しましょう（タイピングゲームは楽しく練習できます）

科目名	情報リテラシー2 (Excel)		教員名	新川 涼子	配当年次	1年
実務教員	○	実務教員の紹介	過去の研究では音感教育アプリをC++を使ってプログラミングしていました。現在の研究では、小学校教員志望の学生さんにScratch（プログラミング）を授業で活用してもらうための手法を研究しています。質問紙調査の解析にはExcelの分散分析などの機能も活用しています。教務においてはExcelVBAを活用し、個別成績票へのデータの転記などに用いています。			

1. 授業概要

Excelでのデータ入力の基本、表編集、計算式の入力、関数、グラフなどExcelの基本的な技能を学習します。
Excel表計算処理技能認定試験3級の取得を目指します。

2. 授業計画

(1時限 50 分×授業回数 45 回 = 総授業時数 2250 分)

1	エクセルでのデータ入力、合計、平均	16	Excel3級 練習問題2
2	掛け算、表編集、練習問題	17	Excel3級 練習問題3
3	MAX、MIN、COUNT、RANK.EQ関数	18	Excel3級 練習問題3
4	練習問題	19	Excel3級 模擬問題1
5	割合の計算、演習問題	20	Excel3級 模擬問題1
6	練習問題	21	Excel3級 模擬問題2
7	グラフ作成1	22	Excel3級 模擬問題2
8	グラフ作成2	23	Excel3級 模擬問題3
9	ROUND、ROUDDUP、ROWNDDOWN関数	24	Excel3級 模擬問題3
10	練習問題	25	Excel3級 模擬問題4
11	IF関数、IF関数のネスト	26	Excel3級 模擬問題4
12	練習問題	27	Excel3級 模擬問題5
13	Excel3級 練習問題1	28	Excel3級 模擬問題6
14	Excel3級 練習問題1	29	Excel3級 模擬問題7 リハーサル
15	Excel3級 練習問題2	30	Excel表計算処理技能認定試験3級 検定実施

3. 評価方法

毎回の授業時の課題30%、検定の試験点数70%

4. テキスト・参考文献等（書名・著者名・出版社）

Excel表計算処理技能認定試験 3級問題集(2019対応)、編著：サーティファイソフトウェア活用能力認定委員会、発行：サーティファイ

5. その他・特記事項

科目名	情報リテラシー3 (PowerPoint)		教員名	新川 涼子	配当年次	1年
実務教員	○	実務教員の紹介	過去の研究では音感教育アプリをC++を使ってプログラミングしていました。現在の研究では、小学校教員志望の学生さんにScratch（プログラミング）を授業で活用してもらうための手法を研究しています。質問紙調査の解析にはExcelの分散分析などの機能も活用しています。教務においてはExcelVBAを活用し、個別成績票へのデータの転記などに用いています。			

1. 授業概要

スライドのテーマ、バリエーションの適用、箇条書きテキストの段落下げ、表の編集、図の挿入、スライドの切り替え効果などPowerPointの基本操作を学習します。PowerPointプレゼンテーション技能認定試験初級の取得を目指します。

2. 授業計画

(1時限 50 分×授業回数 30 回 = 総授業時数 1500 分)

1	PowerPointの基本操作	16	PowerPoint初級 練習問題2
2	練習問題	17	PowerPoint初級 練習問題2
3	表の編集、スタイルの適用	18	PowerPoint初級 練習問題3
4	練習問題	19	PowerPoint初級 練習問題3
5	図の挿入 (SmartArtグラフィックなど)	20	PowerPoint初級 模擬問題1
6	練習問題	21	PowerPoint初級 模擬問題1
7	練習問題	22	PowerPoint初級 模擬問題2
8	スライドの画面切り替え効果、アニメーション	23	PowerPoint初級 模擬問題2
9	練習問題	24	PowerPoint初級 模擬問題3
10	紹介したい観光地について情報を収取	25	PowerPoint初級 模擬問題3
11	紹介したい観光地のスライド作成1	26	PowerPoint初級 模擬問題4
12	紹介したい観光地のスライド作成2	27	PowerPoint初級 模擬問題4
13	紹介したい観光地のスライド 発表会	28	PowerPoint初級 模擬問題5 検定リハーサル
14	PowerPoint初級 練習問題1	29	PowerPoint初級 模擬問題5 検定リハーサル
15	PowerPoint初級 練習問題1	30	PowerPointプレゼンテーション技能認定試験初級 検定実施

3. 評価方法

毎回の授業時の課題30%、検定の試験点数70%

4. テキスト・参考文献等 (書名・著者名・出版社)

PowerPointプレゼンテーション技能認定試験問題集 (2019対応)、編著：サーティファイソフトウェア活用能力認定委員会、発行：サーティファイ

5. その他・特記事項

科目名	課題処理Ⅱ		教員名	新川 涼子	配当年次	2年
実務教員	—	実務教員の紹介				

1. 授業概要

公務員試験で出題される課題処理について解答方法を学習し、問題集で過去問題を解きます。
1年次に学習した分野については、より難易度の高い問題にもチャレンジします。

2. 授業計画

(1時限 50 分×授業回数 60 回 = 総授業時数 3000 分)

1	集合の復習1（ベン図）、出たDATA問	31	出たDATA
2	集合の復習2（ベン図）、出たDATA問	32	多集合対応復習、出たDATA
3	集合の復習3（線分図）、出たDATA問	33	組み分け、出たDATA
4	集合 確認テスト	34	対応 確認テスト
5	TAC 第13章 魔法陣 例題、基本問題	35	論理と集合復習、出たDATA
6	TAC 第13章 演習問題	36	三段論法と対偶復習 出たDATA
7	出たDATA問	37	ド・モルガンの法則復習 出たDATA
8	魔法陣 確認テスト	38	論理 確認テスト
9	TAC 第14章 道順 例題、基本問題	39	直線的関係復習、出たDATA
10	TAC 第14章 演習問題	40	平面的関係復習、出たDATA
11	出たDATA問	41	出たDATA
12	道順 確認テスト	42	位置関係 確認テスト
13	TAC 第15章 手順 例題、基本問題	43	試合トーナメント戦復習、出たDATA
14	TAC 第15章 演習問題	44	出たDATA
15	出たDATA問	45	試合リーグ戦復習、出たDATA
16	手順 確認テスト	46	出たDATA
17	TAC 第16章 曜日 例題、基本問題	47	試合 確認テスト
18	TAC 第16章 演習問題	48	証言（嘘つき問題）復習、出たDATA
19	出たDATA問	49	出たDATA
20	曜日 確認テスト	50	証言 確認テスト
21	TAC 第16章 曜日 例題、基本問題	51	数量 貸し借り、出たDATA
22	TAC 第16章 演習問題	52	出たDATA
23	TAC 第16章 演習問題	53	時計のずれ、出たDATA
24	出たDATA問	54	出たDATA
25	曜日 確認テスト	55	その他の問題、出たDATA
26	順序関係復習、出たDATA	56	出たDATA
27	出たDATA問	57	証言・その他の問題 確認テスト
28	出たDATA問	58	ルール、天びん、読唇術、出たDATA
29	順序関係 確認テスト	59	ルール、天びん、読唇術 確認テスト
30	2集合対応復習、出たDATA	60	総復習

3. 評価方法

単元ごとの確認テストの合算点

4. テキスト・参考文献等（書名・著者名・出版社）

TAC出版 地方初級・国家一般職(高卒者)テキスト 判断推理・資料解釈 第3版、TAC出版編集部 編著、TAC出版

国家公務員・地方初級公務員試験 過去問精選問題集 出たDATA問(6) 判断推理(課題処理)・空間把握、東京アカデミー、東京アカデミー

5. その他・特記事項

科目名	統計学		教員名	新川 涼子	配当年次	2年
実務教員	—	実務教員の紹介				

1. 授業概要

近年設立つ学問として注目を集めている統計学とは、ある1つの群のデータに対してその性質を調べたり、あるいは手持ちのデータからもっと大きな未知のデータや未来のデータを推測するための学問です。統計学には記述統計学と推測統計学がありますが、本講義では、記述統計学を中心に学び、複雑な計算やグラフ化などについてはExcelを活用します。

具体的には、最初にデータの特徴を捉えるため、度数分布、ヒストグラムの作成方法を学びます。次に平均、分散、標準偏差、中央値について計算方法を学びます。データの関係性をつかむため、相関係数、回帰分析、重回帰分析について学びます。平均や分散の差の検定などについても学びます。まために、統計検定の4級、3級、2級過去問題にもチャレンジします。

2. 授業計画

(1時限 50 分×授業回数 60 回＝総授業時数 3000 分)

1	統計学とは、目的の明確化、統計で使われるデータの形式	31	回帰分析、重回帰分析
2	度数分布表の作成、ヒストグラムの作成	32	相関係数、回帰式、予測、考察 練習問題
3	度数分布表の作成、ヒストグラムの作成 練習問題	33	t 検定（母平均の差の検定）
4	度数分布表の作成、ヒストグラムの作成 練習問題	34	t 検定（母平均の差の検定）
5	平均値、中央値、分散、標準偏差	35	両側検定、片側検定、考察 練習問題
6	平均値、中央値、分散、標準偏差	36	両側検定、片側検定、考察 練習問題
7	練習問題（度数分布、ヒストグラム、平均・分散・標準偏差の計算）	37	統計検定3級練習問題
8	練習問題（度数分布、ヒストグラム、平均・分散・標準偏差の計算）	38	統計検定3級練習問題
9	確立の基礎（独立な試行、条件付き確率）	39	統計検定3級練習問題
10	確立の基礎（独立な試行、条件付き確率）	40	復習、試験対策
11	統計検定4級練習問題	41	後期中間試験
12	統計検定4級練習問題	42	後期中間試験 解答解説
13	復習、試験対策	43	統計局のデータを用いて t 検定を実施し、考察をまとめる
14	前期中間試験	44	統計局のデータを用いて t 検定を実施し、考察をまとめる
15	前期中間試験の解答解説	45	統計局のデータを用いて t 検定を実施し、考察をまとめる
16	正規分布、標準化	46	F検定（母分散の検定）、分散分析（1元配置）
17	正規分布、標準化	47	F検定（母分散の検定）、分散分析（1元配置）
18	正規分布表の読み取り、標準化 練習問題	48	分散分析（2元配置）
19	正規分布表の読み取り、標準化 練習問題	49	分散分析（2元配置）
20	母平均・母比率の区間推定	50	時系列分析（データの視覚化、予測）
21	母平均・母比率の区間推定	51	時系列分析（データの視覚化、予測）
22	平均の区間推定 練習問題	52	統計検定3級練習問題の復習
23	順位、偏差値、箱ひげ図	53	統計検定3級練習問題の復習
24	バレット図、ABC分析	54	統計検定2級練習問題
25	正規分布、平均の区間推定、ABC分析 総復習	55	統計検定2級練習問題
26	相関係数、散布図	56	統計検定2級練習問題
27	練習問題（相関係数の計算、散布図の作成、考察）	57	統計検定2級練習問題
28	復習、試験対策	58	復習、試験対策
29	前期期末試験	59	後期期末試験
30	前期期末試験の解答解説	60	後期期末試験の解答解説

3. 評価方法

講義中の課題20％、レポート10％、
試験70％（前期中間試験、前期期末試験、後期中間試験、後期期末試験）

4. テキスト・参考文献等（書名・著者名・出版社）

書 名	著 者 名	出 版 社
やさしく学ぶデータ分析に必要な統計の教科書	羽山博	株式会社インプレス

5. その他・特記事項

--

科目名	自然科学Ⅱ（化学・生物）		教員名	新川 涼子	配当年次	2年
実務教員	—	実務教員の紹介				

1. 授業概要

公務員試験で出題される化学、生物の範囲について中学から高校までに学習した分野を復習し、問題集で過去問題を解きます。
科目ごとの頻出分野を重点的に学習します。

2. 授業計画

（1時限 50 分×授業回数 30 回＝総授業時数 1500 分）

1	生物 第1章 細胞構造	16	生物 第6章 遺伝の仕組みと遺伝子の本体
2	化学 第1章 物質の構造	17	化学 第6章 無機化合物
3	生物 第2章 植物の調節作用	18	生物 第7章 生殖と発生
4	化学 第2章 物質の三態変化	19	化学 出たDATA問 総復習
5	生物 第3章 同化と異化	20	生物 出たDATA問 総復習
6	化学 第3章 溶液	21	化学 出たDATA問 総復習
7	前期 中間試験	22	後期 中間試験
8	試験解答解説、生物 第4章 動物の恒常性と調節	23	試験解答解説、生物 第8章 生物の進化
9	化学 第4章 酸・塩基	24	化学 第7章 有機化学
10	生物 第5章 神経系の発達	25	生物 第9章 生態系と環境問題
11	化学 第5章 酸化・還元	26	化学 出たDATA問 総復習
12	生物 出たDATA問 総復習	27	生物 出たDATA問 総復習
13	化学 出たDATA問 総復習	28	化学 出たDATA問 総復習
14	前期 期末試験	29	後期 期末試験
15	試験解答解説	30	試験解答解説

3. 評価方法

授業での練習問題の解答20%
前期2回（中間、期末）の試験、後期2回の試験（中間、期末）80%

4. テキスト・参考文献等（書名・著者名・出版社）

TAC出版 地方初級・国家一般職(高卒者)テキスト 自然科学 第3版、TAC出版編集部 編著、TAC出版
国家公務員・地方上級公務員試験 過去問精選問題集 出たDATA問（4）自然科学、東京アカデミー、東京アカデミー

5. その他・特記事項

科目名	情報リテラシー5 (Excel上級)		教員名	新川 涼子	配当年次	2年
実務教員	○	実務教員の紹介	過去の研究では音感教育アプリをC++を使ってプログラミングしていました。現在の研究では、小学校教員志望の学生さんにScratch（プログラミング）を授業で活用してもらうための手法を研究しています。質問紙調査の解析にはExcelの分散分析などの機能も活用しています。教務においてはExcelVBAを活用し、個別成績票へのデータの転記などに用いています。			

1. 授業概要

1年次にExcel表計算処理技能認定試験3級の対策を行い、2年次ではExcel表計算処理技能認定試験2級の対策を行います。

2級は3級にはない知識試験があり、実技に関しても高度な機能を使います。まずはクイックマスターで個々の技能を習得し模擬問題で練習を繰り返しましょう。

2. 授業計画

(1時限 50 分×授業回数 39 回 = 総授業時数 1950 分)

1	入力規則1	21	知識練習問題6、7
2	入力規則2	22	2級模擬問題1 実技
3	入力規則3	23	2級模擬問題1 実技
4	文字列操作関数 RIGHT、LEFT、MID	24	2級模擬問題1 知識
5	検索関数 VLOOKUP、HLOOKUP、INDEX	25	2級模擬問題2 実技
6	データベース関数 DAVERAGE、DSUM、DMAX、DMIN	26	2級模擬問題2 実技
7	関数の練習問題	27	2級模擬問題2 知識
8	データベースの抽出、小計	28	2級模擬問題3 実技
9	ピボットテーブル	29	2級模擬問題3 実技
10	マクロの記録	30	2級模擬問題3 知識
11	マクロの練習問題	31	2級模擬問題4 実技
12	ゴールシーク	32	2級模擬問題4 実技
13	2級実技練習問題1	33	2級模擬問題4 知識
14	2級実技練習問題1	34	Excel表計算技能認定試験2級 リハーサル 知識
15	知識練習問題1、2	35	Excel表計算技能認定試験2級 リハーサル 実技
16	2級実技練習問題2	36	総復習
17	2級実技練習問題2	37	Excel表計算技能認定試験2級 実施
18	知識練習問題3、4、5	38	Excel表計算技能認定試験2級 実施
19	2級実技練習問題3	39	Excel表計算技能認定試験2級 実施
20	2級実技練習問題3		

3. 評価方法

毎回の授業時の課題30%、検定の試験点数70%

4. テキスト・参考文献等（書名・著者名・出版社）

Excel2016 クイックマスター <応用編>,ウイネット,ウイネット

Excel®表計算処理技能認定試験 1・2級問題集(2019対応),サーティファイソフトウェア活用能力認定委員会,サーティファイ

5. その他・特記事項

科目名	情報リテラシー4 (プログラミング)		教員名	新川 涼子	配当年次	2年
実務教員	○	実務教員の紹介	過去の研究では音感教育アプリをC++を使ってプログラミングしていました。現在の研究では、小学校教員志望の学生さんにScratch（プログラミング）を授業で活用してもらうための手法を研究しています。質問紙調査の解析にはExcelの分散分析などの機能も活用しています。教務においてはExcelVBAを活用し、個別成績票へのデータの転記などに用いています。			

1. 授業概要

Scratchによりプログラミングを学習します。アルゴリズムを理解しコードを記述することを通して論理的思考を身に着けます。
 ジュニアプログラミング検定のブロンズ級、シルバー級の検定対策、コードのアレンジの方法を学び基本を習得します。
 最終課題では、オリジナルのゲームを作成します。

2. 授業計画

(1時限 50 分×授業回数 30 回 = 総授業時数 1500 分)

1	ブロンズ級の例題作成1	16	シルバー級の課題作成2
2	ブロンズ級の例題作成2	17	シルバー級の課題作成3、アレンジ
3	ブロンズ級の課題作成1	18	クイズゲーム設計
4	ブロンズ級の課題作成2、アレンジ	19	クイズゲーム作成1
5	ひつじ河渡りゲームの作成1	20	クイズゲーム作成2
6	ひつじ河渡りゲームの作成2	21	ジュニアプログラミング検定 シルバー級 検定実施
7	お散歩プログラム設計	22	かえるになったナイト 例題部分作成1
8	お散歩プログラム作成1	23	かえるになったナイト 例題部分作成2
9	お散歩プログラム作成2	24	かえるになったナイトのその後 設計
10	ジュニアプログラミング検定 ブロンズ級 検定実施	25	かえるになったナイトのその後プログラム作成1
11	シルバー級の例題作成1	26	かえるになったナイトのその後プログラム作成2
12	シルバー級の例題作成2	27	自由課題 シューティングゲーム設計
13	シルバー級の例題作成3	28	自由課題 シューティングゲームプログラム作成1
14	シルバー級の例題作成4	29	自由課題 シューティングゲームプログラム作成2
15	シルバー級の課題作成1	30	オリジナルゲームの発表会

3. 評価方法

テキストの例題、課題プログラム作成15%、その他の課題15%
 ジュニアプログラミング検定ブロンズ級の成績35%、ジュニアプログラミング検定シルバー級の成績35%

4. テキスト・参考文献等（書名・著者名・出版社）

Scratch 3.0で楽しむ レッツ! プログラミング ジュニア・プログラミング検定 公式テキスト、富士通エフ・オー・エム株式会社（著）、FOM出版

5. その他・特記事項

科目名	歴史（日本史）		教員名	仲間 徳正	配当年次	1年
実務教員	－	実務教員の紹介				

1. 授業概要

--

2. 授業計画

(1時限 50 分×授業回数 60 回＝総授業時数 3000 分)

1	歴史を学ぶ目的	21	鎖国と江戸時代の外交
2	考古学と神話	22	元禄時代、享保の改革
3	弥生文化、「邪馬台国」と「卑弥呼」の時代	23	経済の発展
4	大和政権の成立、仏教伝来	24	田沼意次の改革と寛政の改革
5	聖徳太子と冊封体制からの離脱、大化の改新	25	天保の改革、欧米の接近
6	壬申の乱と天武朝	26	ペリー来航と開国
7	律令制度の確立	27	明治維新
8	奈良朝とその混乱	28	大日本帝国憲法の制定
9	平安朝と摂関政治	29	朝鮮問題と日清戦争、三国干渉
10	武士の登場	30	日英同盟、日露戦争
11	院政と平氏政権	31	条約改正、日韓併合
12	源氏政権と執権政治	32	第一次護憲運動の敗北
13	元寇	33	原敬内閣の政治、第一次世界大戦
14	後醍醐天皇と南北朝	34	第二次護憲運動、金融恐慌と昭和恐慌
15	足利義満と勘合貿易	35	満州事変
16	琉球王国の興亡	36	政党政治の崩壊
17	戦国時代、欧州との遭遇	37	日華事変
18	織豊政権	38	アメリカとの戦争と共産主義
19	徳川家康と江戸時代の外交政策	39	敗戦と占領～War Guilt Information Plan
20	幕藩体制	40	筆記試験

3. 評価方法

前期：レポート 後期：筆記試験

4. テキスト・参考文献等（書名・著者名・出版社）

書 名	著 者 名	出 版 社
教科書：日本史の論点 邪馬台国から象徴天皇制まで	中央公論編集部（編）	中央公論新社（中公新書）

5. その他・特記事項

--

科目名	地理学		教員名	仲間 徳正	配当年次	2年
実務教員	—	実務教員の紹介				

1. 授業概要

地理学という学問は、大きく分けると「系統地理学」、「地誌学」、「地図学」、「地理学説史」という4つの系統からできており、「系統地理学」はさらに地形、気候、海洋、土壌などの自然的環境をベースにした「自然地理学」と、人間、文化、社会などの分布、特色、環境との関係などを研究する「人文地理学」に分かれる。

この講義では各種公務員試験における一般教養レベルの地理学的基础知識が身につくことを直接の目的にしており、授業内容も、専門的に地理学の一分野を追求するのではなく、前期は自然地理学、後期は人文地理学のなかでも公務員試験対策に特化して、各国・地域の特徴を、教養試験レベルで把握できるようにする。

講義中心になるが、視覚資料を多く用い、高等学校での地理未修者にも理解し易いように内容を構成する。

2. 授業計画

(1時限 50 分×授業回数 60 回 = 総授業時数 3000 分)

1	オリエンテーション、世界地図の図法（1）	21	東南アジアの地誌（1）
2	世界地図の図法（2）	22	東南アジアの地誌（2）
3	大陸の分布と地形（1） 概説、産地	23	南アジアの地誌
4	大陸の分布と地形（2） 沖積平野、台地	24	西アジアの地誌
5	大陸の分布と地形（3） 浸食平野、沈水海岸	25	アフリカの地誌（1）
6	大陸の分布と地形（4） 離水海岸	26	アフリカの地誌（2）
7	大陸の分布と地形（5） 珊瑚礁、氷河地形	27	西ヨーロッパの地誌（1）
8	大陸の分布と地形（6） 砂漠地形、カルスト	28	西ヨーロッパの地誌（2）
9	大陸の分布と地形（7） 断層地形、構造盆地	29	東ヨーロッパの地誌
10	世界の気候（1） 概説、ケッペンの気候区分（1）	30	北ヨーロッパの地誌
11	世界の気候（2） ケッペンの気候区分（2）	31	ロシアとその周辺国の地誌（1）
12	世界の気候（3） ケッペンの気候区分（3）	32	ロシアとその周辺国の地誌（2）
13	世界の土壌	33	北米の地誌
14	世界の農業（1） 概説、ホイットルシーの農業地域区分（1）	34	南米の地誌
15	世界の農業（2） ホイットルシーの農業地域区分（2）	35	オセアニアの地誌
16	世界の農業（3） 各地の特色ある農業	36	日本の地形
17	世界の鉱工業（1） 各地の特色ある工業	37	日本の地誌（1）
18	世界の鉱工業（2） 資源とエネルギー問題	38	日本の地誌（2）
19	東アジアの地誌（1）	39	日本の地誌（3）
20	東アジアの地誌（2）	40	期末考査

3. 評価方法

前期：レポート

後期：筆記試験

4. テキスト・参考文献等（書名・著者名・出版社）

書 名	著 者 名	出 版 社
『最新基本地図 世界・日本 46訂版』		帝国書院

5. その他・特記事項

科目名	民法2（物権）		教員名	仲嶺 望	配当年次	2年
実務教員	○	実務教員の紹介	学校法人尚学院の事務局長として法務、総務、経理等を担当。その経験を活かして、法律問題を身近な問題を例にしながらわかりやすく指導していきます。			

1. 授業概要

民法第2編物権に規定されている基本的な制度とそれらの制度をめぐる条文解釈上の諸問題について講義する。物権は大きく物権総論と担保物権に分かれるが、同じ物権編の規定であるにも関わらず、前者は理論的色彩が強いものになっており、後者は実践的な色彩が強いものとなっている。また、後者は債権を担保するための制度であるため、債権法と密接に結びついている。総則や債権総論の概説番も参照しながら、学習することが求められる。受講者は、物権法に規定されている基本制度を理解するきっかけをつかむことができる。

2. 授業計画 (1時限 50 分×授業回数 72 回 = 総授業時数 3600 分)

I 物権法概説 ・意義 ・物権の種類 ・物権的請求権	VII 留置権 ・総説 ・成立要件 ・効力 ・留置権の消滅
II 物権変動 ・物権変動総説 ・法律行為に基づく物権変動 ・不動産の物権変動 ・立木等の物権変動	VIII 先取特権 ・意義 ・性質 ・種類 ・先取特権の順位 ・効力 ・物上代位
III 占有権 ・占有の成立と態様 ・占有権の効果 ・占有権の効果 ・即時取得 ・占有権の消滅 ・準占有	IX 質権 ・意義 ・設定 ・効力 ・転質 ・質権の比較
IV 所有権 ・所有権総説 ・所有権の取得 ・共有	X 抵当権 ・総説 ・抵当権の効力 ・抵当権と用益権との関係 ・抵当不動産の第三取得者の地位 ・抵当権侵害 ・抵当権の処分 ・共同抵当 ・抵当権の消滅原因 ・根抵当
V 用益物権 ・用益物権総説 ・地上権 ・永小作権 ・地役権	XI 非典型担保物件 ・総説 ・譲渡担保 ・所有権留保
VI 担保物権総説 ・序論 ・種類 ・性質・効力 ・担保物件の比較	

3. 評価方法

出席率・授業態度50%、試験正答率50%

試験（科目試験またはスクーリング試験）により最終評価する。

4. テキスト・参考文献等（書名・著者名・出版社）

公務員合格テキスト 試験対策講座 民法 （伊藤塾）

淡路 剛久・鎌田 薫 他 『民法Ⅱ－物権』 [第4版] 以降（有斐閣）

六法

5. その他・特記事項

予習内容：各回のテーマについて、各自の概説書を読んで概要を理解すること。目安：1テーマにつき60分

復習内容：各回の授業内容を確認するとともに、よく分からなかった部分については、概説書を読んで理解を深め、各回の内容をノートにまとめること。

目安：1テーマにつき90分

科目名	民法3（債権総論）		教員名	仲嶺 望	配当年次	2年
実務教員	○	実務教員の紹介	学校法人尚学院の事務局長として法務、総務、経理等を担当。その経験を活かして、法律問題を身近な問題を例にしながらわかりやすく指導していきます。			

1. 授業概要

民法第3編第1章（399条～520条の20）の債権総論と呼ばれる分野を学習します。六法を手元に置いて、概説書や判例集を読み進めるという地道な作業が必要になります。到達目標として、1. 債権総論領域で登場する基本概念を理解できるようになること 2. 債権総論領域に規定されている諸制度の要件・効果を理解できるようになること になります。

2. 授業計画

(1時限 50 分×授業回数 63 回＝総授業時数 3150 分)

I 債権法総説 ・債権 ・債権法の全体像	VI 債権・債務の移転 ・債権譲渡 ・債務引受け ・契約上の地位の移転
II 債権の目的 ・債権の目的に関する要件 ・特定物債権と種類債権	VII 債権の消滅 ・総説 ・弁済 ・代物弁済・供託 ・更改・免除・混同
III 債権の効力 ・現実的履行の強制 ・債務不履行に基づく損害賠償請求 ・債権者の受領遅滞	
IV 責任財産の保全 ・総説 ・債権者代位権 ・詐害行為取消権	
V 多数当事者の債権・債務 ・分割債権・分割債務 ・不可分債権・不可分債務 ・連帯債権 ・連帯債務 ・保証債務 ・個人根保証契約	

3. 評価方法

出席率・授業態度50%、試験正答率50%

試験（科目試験またはスクーリング試験）により最終評価する。

4. テキスト・参考文献等（書名・著者名・出版社）

公務員合格テキスト 試験対策講座 民法 （伊藤塾）

野村 豊弘・栗田 哲男 他『民法III－債権総論』〔第4版〕以降（有斐閣）

六法

5. その他・特記事項

科目の性質上、予習・復習という形に分けることはできないが、複数の概説書を読んで、制度内容・制度趣旨・背後にある原理などを理解するようにしてもらいたい。

科目名	民法試験対策		教員名	仲嶺 望	配当年次	2年
実務教員	○	実務教員の紹介	学校法人尚学院の事務局長として法務、総務、経理等を担当。その経験を活かして、法律問題を身近な問題を例にしながらわかりやすく指導していきます。			

1. 授業概要

2年次履修する法律専門科目は4科目中3科目が民法分野の科目です。（物権法、債権法総論、親族・相続法）そこで、昨年度履修した民法総則の復習を行っています。民法総則は抽象的で分かりにくく、学習の途上で挫折してしまうことが多いといわれますが、これから法律学を学ぶ際の基礎となる分野ですので、確実な理解を積み重ねていくことが重要です。。それぞれの制度の意義・趣旨などを正確に理解し、具体的な事例に対応できることを意識して講義を進めていきます。

2. 授業計画

(1時限 50 分×授業回数 49 回 = 総授業時数 2450 分)

I 民法の基本構造 ・民法の全体構造 ・民法の指導原理	VII 無効と取り消し ・無効 ・取消し
II 私権の行使 ・私権の意義 ・私権の制限	VIII 代理 ・代理総説 ・代理権 ・代理行為 ・復代理 ・無権代理 ・表見代理
III 権利の主体 ・はじめに ・人（自然人） ・法人	IX 条件・期限・期間 ・条件 ・期限 ・期間
IV 権利の客体（物） ・物の意義・分類 ・不動産と動産 ・主物と従物 ・元物と果実	X 時効 ・時効総説 ・取得時効 ・消滅時効 ・時効の放棄 ・時効の完成猶予・更新など ・時効に類似する制度
V 法律行為 ・概説 ・契約の成立から効力発生まで ・公序良俗	
VI 意思表示 ・意思表示概説 ・意思表示各論 ・意思表示の効力発生	

3. 評価方法

出席率・授業態度50%、試験正答率50%

4. テキスト・参考文献等（書名・著者名・出版社）

公務員合格テキスト 試験対策講座 民法 （伊藤塾）
六法

5. その他・特記事項

科目名	憲法試験対策		教員名	仲嶺 望	配当年次	2年
実務教員	○	実務教員の紹介	学校法人尚学院の事務局長として法務、総務、経理等を担当。その経験を活かして、法律問題を身近な問題を例にしながらわかりやすく指導していきます。			

1. 授業概要

公務員試験を含む法律資格試験の出題範囲における専門科目（憲法）について知識の習得と過去問を踏まえて問題演習を行い、当該試験出題数に対して8割以上の正答率を目指す。インプット（講義）とアウトプット（演習）のバランスを重視し、出題に対する知識の習熟を図る。

憲法に関しては、人権と統治の頻出論点を重点に授業を進める。

2. 授業計画

(1時限 50 分×授業回数 30 回 = 総授業時数 1500 分)

- 1 日本国憲法の基本原理
- 2 基本的人権総論（天皇等）
- 3 幸福追求権・法の下での平等
- 4 自由権①（精神的自由権）
- 5 自由権②（経済的自由権・人身の自由）
- 6 社会権・参政権・受益権
- 7 国会（衆議院・参議院）
- 8 内閣（内閣総理大臣・国务大臣）
- 9 裁判所（最高裁判所・下級裁判所）
- 10 財政・地方自治・憲法改正

3. 評価方法

出席率・授業態度50%、試験正答率50%

4. テキスト・参考文献等（書名・著者名・出版社）

公務員合格テキスト 試験対策講座 憲法 （伊藤塾）
六法

5. その他・特記事項

科目名	民法1（総則）		教員名	仲嶺 望	配当年次	3年
実務教員	○	実務教員の紹介	学校法人尚学院の事務局長として法務、総務、経理等を担当。その経験を活かして、法律問題を身近な問題を例にしながらわかりやすく指導していきます。			

1. 授業概要

民法第1編（1条～174条の2）の民法総則と呼ばれる分野を学習します。六法を手元に置いて、概説書や判例集を読み進めるという地道な作業が必要になります。到達目標として、1. 総則中に登場する基本概念を理解すること 2. 総則に規定されている諸制度の要件・効果を把握すること になります。

2. 授業計画

（1時限 50 分×授業回数 54 回＝総授業時数 2700 分）

I 民法の基本構造 ・民法の全体構造 ・民法の指導原理	VII 無効と取り消し ・無効 ・取消し
II 私権の行使 ・私権の意義 ・私権の制限	VIII 代理 ・代理総説 ・代理権 ・代理行為 ・復代理 ・無権代理 ・表見代理
III 権利の主体 ・はじめに ・人（自然人） ・法人	IX 条件・期限・期間 ・条件 ・期限 ・期間
IV 権利の客体（物） ・物の意義・分類 ・不動産と動産 ・主物と従物 ・元物と果実	X 時効 ・時効総説 ・取得時効 ・消滅時効 ・時効の放棄 ・時効の完成猶予・更新など ・時効に類似する制度
V 法律行為 ・概説 ・契約の成立から効力発生まで ・公序良俗	
VI 意思表示 ・意思表示概説 ・意思表示各論 ・意思表示の効力発生	

3. 評価方法

出席率・授業態度50%、試験正答率50%

試験（科目試験またはスクーリング試験）により最終評価する。

4. テキスト・参考文献等（書名・著者名・出版社）

公務員合格テキスト 試験対策講座 民法 （伊藤塾）

新井 誠・岡伸 浩 『民法講義録』〔改訂版〕（日本評論社）

六法

5. その他・特記事項

民法総則は抽象的で分かりにくく、学習の途上で挫折してしまうことが多いといわれますが、これから法律学を学ぶ際の基礎となる分野ですので、確実な理解を積み重ねていくことが重要です。なお、本授業では可能な限り具体例を想定しながら、興味を持って授業に臨んでいくことが求められています。そのことによって、民法総則の抽象性を少しは払拭できると思います。

科目名	民法2（物権）		教員名	仲嶺 望	配当年次	3年
実務教員	○	実務教員の紹介	学校法人尚学院の事務局長として法務、総務、経理等を担当。その経験を活かして、法律問題を身近な問題を例にしながらわかりやすく指導していきます。			

1. 授業概要

民法第2編物権に規定されている基本的な制度とそれらの制度をめぐる条文解釈上の諸問題について講義する。物権は大きく物権総論と担保物権に分かれるが、同じ物権編の規定であるにも関わらず、前者は理論的色彩が強いものになっており、後者は実践的な色彩が強いものとなっている。また、後者は債権を担保するための制度であるため、債権法と密接に結びついている。総則や債権総論の概説番も参照しながら、学習することが求められる。受講者は、物権法に規定されている基本制度を理解するきっかけをつかむことができる。

2. 授業計画

（1時限 50 分×授業回数 60 回＝総授業時数 3000 分）

I 物権法概説 ・意義 ・物権の種類 ・物権的請求権	VII 留置権 ・総説 ・成立要件 ・効力 ・留置権の消滅
II 物権変動 ・物権変動総説 ・法律行為に基づく物権変動 ・不動産の物権変動 ・立木等の物権変動	VIII 先取特権 ・意義 ・性質 ・種類 ・先取特権の順位 ・効力 ・物上代位
III 占有権 ・占有の成立と態様 ・占有権の効果 ・占有権の効果 ・即時取得 ・占有権の消滅 ・準占有	IX 質権 ・意義 ・設定 ・効力 ・転質 ・質権の比較
IV 所有権 ・所有権総説 ・所有権の取得 ・共有	X 抵当権 ・総説 ・抵当権の効力 ・抵当権と用益権との関係 ・抵当不動産の第三取得者の地位 ・抵当権侵害 ・抵当権の処分 ・共同抵当 ・抵当権の消滅原因 ・根抵当
V 用益物権 ・用益物権総説 ・地上権 ・永小作権 ・地役権	XI 非典型担保物件 ・総説 ・譲渡担保 ・所有権留保
VI 担保物権総説 ・序論 ・種類 ・性質・効力 ・担保物件の比較	

3. 評価方法

出席率・授業態度50%、試験正答率50%

試験（科目試験またはスクーリング試験）により最終評価する。

4. テキスト・参考文献等（書名・著者名・出版社）

公務員合格テキスト 試験対策講座 民法 （伊藤塾）

淡路 剛久・鎌田 薫 他 『民法Ⅱ－物権』 [第4版] 以降（有斐閣）

六法

5. その他・特記事項

予習内容：各回のテーマについて、各自の概説書を読んで概要を理解すること。目安：1テーマにつき60分

復習内容：各回の授業内容を確認するとともに、よく分からなかった部分については、概説書を読んで理解を深め、各回の内容をノートにまとめること。

目安：1テーマにつき90分

科目名	公務員試験対策Ⅲ (法学)		教員名	仲 嶺 望	配当年次	3年
実務教員	○	実務教員の紹介	学校法人尚学院の事務局長として法務、総務、経理等を担当。その経験を活かして、法律問題を身近な問題を例にしながらわかりやすく指導していきます。			

1. 授業概要

公務員試験出題範囲における専門科目（憲法・民法Ⅰ）について知識の習得と過去問を踏まえて問題演習を行い、公務員試験出題数に対して8割以上の正答率を目指す。インプット（講義）とアウトプット（演習）のバランスを重視し、出題に対する知識の習熟を図る。

憲法に関しては、人権と統治の頻出論点を重点に授業を進める。民法に関しては、総則と物権の頻出論点を重点に授業を進める。

2. 授業計画

(1時限 50 分×授業回数 36 回 = 総授業時数 1800 分)

1	日本国憲法の基本原理	1 5	総則⑤－代理（無権代理）
2	基本的人権総論（天皇等）	1 6	総則⑥－代理（表見代理）
3	幸福追求権・法の下での平等	1 7	総則⑦－条件・期限・期間
4	自由権①（精神的自由権）	1 8	総則⑧－時効（取得時効・消滅時効）
5	自由権②（経済的自由権・人身の自由）	1 9	物権①－不動産物権変動
6	社会権・参政権・受益権	2 0	物権②－動産物権変動
7	国会（衆議院・参議院）	2 1	物権③－占有権
8	内閣（内閣総理大臣・国务大臣）	2 2	物権④－所有権
9	裁判所（最高裁判所・下級裁判所）	2 3	物権⑤－法定担保物権（留置権）
1 0	財政・地方自治・憲法改正	2 4	物権⑥－法定担保物権（先取特権）
1 1	総則①－民法の意義、権利と義務	2 5	物権⑦－約定担保物権（質権）
1 2	総則②－権利能力・行為能力	2 6	物権④－約定担保物権（抵当権）
1 3	総則③－意思表示		
1 4	総則④－法人・権利なき社团		

3. 評価方法

出席率・授業態度50%、試験正答率50%

4. テキスト・参考文献等（書名・著者名・出版社）

公務員試験過去問トレーニング 伊藤塾のこれで完成 憲法（KADOKAWA）

公務員試験過去問トレーニング 伊藤塾のこれで完成 民法（KADOKAWA）

5. その他・特記事項

科目名	商法（会社法）		教員名	仲嶺 望	配当年次	4年
実務教員	○	実務教員の紹介	学校法人尚学院の事務局長として法務、総務、経理等を担当。その経験を活かして、法律問題を身近な問題を例にしながらわかりやすく指導していきます。			

1. 授業概要

今日の経済活動を担っているのが会社、とりわけ株式会社です。この科目は会社法をもとに、設立から解散までの間に発生する法律問題を学習します。株式会社以外にも、合名会社、合資会社および合同会社についても学習します。これらの会社が現実の経済社会でどのように活動しているか、法的側面から検討します。まず、会社法の全体像を理解します。そのため、テキストを繰り返し読み、条文にあたります。つぎに、会社法は生きた法律とされているので、現実が生じている事件や事例にあたります。新聞等で取り上げられている実務の問題を解決できる知識を習得します。

2. 授業計画

(1時限 50 分×授業回数 66 回 = 総授業時数 3300 分)

I 会社法概説	V 株式会社の設立
・会社の意義・会社法の目的	・概要 ・設立の手続 ・株式会社の設立の登記
・会社の分類・社員の責任 ・会社の種類	・違法な設立・会社の不成立及び不存在
II 株式会社総論	・設立に関する責任
・株式会社の特徴 ・資本金 ・機関 ・公開会社・大会社	VI 資金調達
III 株式	・株式会社の資金調達 ・募集株式の発行等
・総論 ・株式の内容と種類 ・株券と株主名簿	・社債の発行
・株式譲渡 ・株式会社による自己株式の取得	VII 組織再編
・単元株制度	・合併 ・会社分割 ・株式交換・株式移転
IV 機関	・株式交付 ・組織変更 ・事業譲渡等 ・親子会社
・総説 ・株主総会 ・取締役 ・取締役会	VIII 株式会社・その他
・会計参与 ・監査役 ・監査役会 ・会計監査人	・計算 ・定款の変更 ・解散・清算
・指名委員会等設置会社 ・監査等委員会設置会社	IX 持分会社
・役員等の損害賠償責任	・総論 ・設立 ・社員 ・管理 ・社員の加入と退社
	・その他 ・株式会社との比較

3. 評価方法

出席率・授業態度50%、試験正答率50%

試験（科目試験またはスクーリング試験）により最終評価する。

4. テキスト・参考文献等（書名・著者名・出版社）

公務員合格テキスト 試験対策講座 民法 （伊藤塾）

三浦治 『基本テキスト会社法』 [第2版以降] （中央経済社）

六法

5. その他・特記事項

テキストを丸暗記するだけでなく、何が問題点かを考え、それを解決し、他者の意見を聞くとともに、きちんと自己の意見を持ちましょう。日常生活の中で会社法について興味を持つため、新聞等のマスコミの情報に注目しましょう。

科目名	公務員試験対策 (法学)		教員名	仲 嶺 望	配当年次	4年
実務教員	○	実務教員の紹介	学校法人尚学院の事務局長として法務、総務、経理等を担当。その経験を活かして、法律問題を身近な問題を例にしながらわかりやすく指導していきます。			

1. 授業概要

昨年度に引き続き、公務員試験出題範囲における専門科目（行政法）について知識の習得と過去問を踏まえて問題演習を行い、公務員試験出題数に対して8割以上の正答率を目指す。インプット（講義）とアウトプット（演習）のバランスを重視し、出題に対する知識の習熟を図る。
また、行政法修了後、憲法、民法、行政法の過去問演習を行う。

2. 授業計画

(1時限 50 分×授業回数 24 回 = 総授業時数 1200 分)

1	法律による行政の原理	公法・私法の交錯	15	行政不服審査法	総説
2	行政組織		16	行政不服審査法	類型・要件
3	行政立法		17	行政不服審査法	手続・終了
4	行政計画		18	行政事件訴訟法	総説
5	行政裁量		19	行政事件訴訟法	訴訟選択
6	行政行為	総説・効力	20	行政事件訴訟法	取消訴訟
7	行政行為	瑕疵ある行為	21	国家賠償法	
8	行政上の強制措置		22	地方自治法	総説
9	行政手続法	総説	23	地方自治法	住民自治
10	行政手続法	申請に対する処分	24	地方自治法	団体自治
11	行政手続法	不利益処分	25	行政法	過去問演習
12	行政手続法	行政指導	26	憲法	過去問演習
13	行政指導	中止等の求め・処分等の求め	27	民法	過去問演習
14	行政手続法	意見公募手続			

3. 評価方法

出席率・授業態度50%、試験正答率50%

4. テキスト・参考文献等（書名・著者名・出版社）

公務員試験過去問トレーニング 伊藤塾のこれで完成 行政法（KADOKAWA）
 公務員試験過去問トレーニング 伊藤塾のこれで完成 憲法（KADOKAWA）
 公務員試験過去問トレーニング 伊藤塾のこれで完成 民法（KADOKAWA）

5. その他・特記事項

科目名	進路就職探求		教員名	仲嶺 美和	配当年次	4年
実務教員	—	実務教員の紹介				

1. 授業概要

中央大学科目試験対策を行い、中大卒業認定を目指す。

公務員試験対策および就職活動のサポートを行う。

2. 授業計画

(1時限 50 分×授業回数 585 回 = 総授業時数 29250 分)

- 1 中央大学科目試験対策
- 2 就職活動対策
- 3 公務員試験・資格試験対策

3. 評価方法

中央大学科目試験の結果、及び就職活動記録、公務員試験の結果等で評価する。

4. テキスト・参考文献等 (書名・著者名・出版社)

5. その他・特記事項

社会の探究、自分自身の内面の探究を行ってほしい。

科目名	模擬試験Ⅳ		教員名	仲嶺 美和	配当年次	4年
実務教員	—	実務教員の紹介				

1. 授業概要

大卒程度の公務員模擬試験を行う。

2. 授業計画

(1時限 50 分×授業回数 24 回 = 総授業時数 1200 分)

- 1 国税・財務・労働基準監督型模擬試験
 - 2 国家一般職型模擬試験
 - 3 地方上級型模擬試験
 - 4 市役所型模擬試験
- その他 資格試験対策

3. 評価方法

模擬試験の結果で判断する。

4. テキスト・参考文献等 (書名・著者名・出版社)

5. その他・特記事項

科目名	空間把握 I		教員名	美里 勉	配当年次	1年
実務教員	—	実務教員の紹介				

1. 授業概要

空間把握は直感や想像力・インスピレーションで解くものも多いが、全て理論的に説明できる。
知識としてその理論を知っているか、公式化されてるのを知っているか、厭わずに反復練習したか、でしかない。
講師独自の解法を紹介しながら私立中学入試問題と初級程度の公務員試験の過去問を反復練習する。

2. 授業計画 (1時限 50 分×授業回数 30 回 = 総授業時数 1500 分)

- 1 柱体・すい体・正多面体
- 2 展開図・投影図・回転体
- 3 体積と比
- 4 立体の切断
- 5 折り紙
- 6 回転・移動
- 7 経路

3. 評価方法

1. 出席率
2. 授業参加率

4. テキスト・参考文献等 (書名・著者名・出版社)

1. 私立中学入試問題集
2. 公務員過去問題集

5. その他・特記事項

科目名	数的推理 I		教員名	美里 勉	配当年次	1年
実務教員	—	実務教員の紹介				

1. 授業概要

問題文の読み方、ヒント の見つけ方、切り 込みの仕方を講師独自の観点から説く。

私立中学入試問題と初級程度の公務員試験過去問の反復練習で講師独自の解法の慣れを目指す。

2. 授業計画

(1時限 50 分×授業回数 60 回 = 総授業時数 3000 分)

1 公約数・公倍数	15 通過算
2 集合と論理	16 流水算
3 場合の数	17 時計算
4 単位換算	18 ニュートン算
5 等差数列	19 面積と比
6 和差算	20 円・おうぎ形
7 面積図	21 相似
8 過不足算	22 相似比と面積比
9 相当算	
10 損益算	
11 濃度	
12 仕事算	
13 速さ	
14 旅人算	

3. 評価方法

- 出席率
- 授業参加率

4. テキスト・参考文献等 (書名・著者名・出版社)

- 私立中学入試問題
- 公務員過去問題集

5. その他・特記事項

科目名	数的処理Ⅱ		教員名	美里 勉	配当年次	2年
実務教員	—	実務教員の紹介				

1. 授業概要

問題文の読み方、ヒントの見つけ方、切り込みの仕方を講師独自の観点から説く。

私立中学入試問題と初級・中級程度の公務員試験過去問の反復練習で講師独自の解法の慣れを目指す。

2. 授業計画

(1時限 50 分×授業回数 99 回 = 総授業時数 4950 分)

1	公約数・公倍数	15	通過算
2	集合と論理	16	流水算
3	場合の数	17	時計算
4	単位換算	18	ニュートン算
5	等差数列	19	面積と比
6	和差算	20	円・おうぎ形
7	面積図	21	相似
8	過不足算	22	相似比と面積比
9	相当算		
10	損益算		
11	濃度		
12	仕事算		
13	速さ		
14	旅人算		

3. 評価方法

- 出席率
- 授業参加率

4. テキスト・参考文献等（書名・著者名・出版社）

- 私立中学入試問題
- 公務員過去問題集

5. その他・特記事項

科目名	数的処理Ⅲ		教員名	美里 勉	配当年次	3年
実務教員	—	実務教員の紹介				

1. 授業概要

問題文の読み方、ヒントの見つけ方、切り込みの仕方を講師独自の観点から説く。
 私立中学入試問題と中級・上級程度の公務員試験の過去問の反復練習で講師独自の解法の慣れを目指す。

2. 授業計画

(1時限 50 分×授業回数 111 回 = 総授業時数 5550 分)

1 公約数・公倍数	15 通過算
2 集合と論理	16 流水算
3 場合の数	17 時計算
4 単位換算	18 ニュートン算
5 等差数列	19 面積と比
6 和差算	20 円・おうぎ形
7 面積図	21 相似
8 過不足算	22 相似比と面積比
9 相当算	
10 損益算	
11 濃度	
12 仕事算	
13 速さ	
14 旅人算	

3. 評価方法

- 出席率
- 授業参加率

4. テキスト・参考文献等（書名・著者名・出版社）

- 私立中学入試問題
- 公務員過去問題集

5. その他・特記事項

科目名	課題処理Ⅲ		教員名	美里 勉	配当年次	3年
実務教員	—	実務教員の紹介				

1. 授業概要

選択肢も本文の一部として読み込む。解き方の容量を得ることによって解くスピードが速くなる。
公務員中級・上級過去問を一般的な解法と講師独自の着眼点を加え解いていく。

2. 授業計画

(1時限 50 分×授業回数 114 回 = 総授業時数 5700 分)

- 1 論理・命題
- 2 対応関係
- 3 対応関係
- 4 順序・位置関係
- 5 操作手順
- 6 道順
- 7 軌跡

3. 評価方法

1. 出席率
2. 授業参加率

4. テキスト・参考文献等 (書名・著者名・出版社)

1. 私立中学入試問題
2. 公務員過去問題集

5. その他・特記事項

科目名	刑法総論		教員名	儀武 玄秀	配当年次	1年
実務教員	—	実務教員の紹介				

1. 授業概要

概ねテキストの順番に沿って、刑法総論の重要論点について解説をする。また、適宜質疑応答を行っていく。

2. 授業計画

(1時限 50 分×授業回数 63 回 = 総授業時数 3150 分)

1～3回 刑法の基礎（罪刑法定主義）
4～9回 構成要件論（不真正不作为犯・因果関係）
10～15回 違法論（正当行為・正当防衛・緊急避難）
16～21回 責任論（故意・錯誤・過失）
22～27回 未遂犯論（未遂犯・不能犯・中止犯）
28～33回 共犯論（共同正犯・教唆犯・従犯・共犯の諸問題）
34～36回 罪数論・刑罰論（罪数の意義・刑罰の形態）
37～45回 まとめ・問題演習
46～63回 オンラインスクーリング

3. 評価方法

原則として、出席点で評価する。

4. テキスト・参考文献等（書名・著者名・出版社）

コンパクト刑法総論／只木誠／新世社、オンラインスクーリングレジュメ

5. その他・特記事項

科目名	英語B		教員名	儀武 玄秀	配当年次	1年
実務教員	—	実務教員の紹介				

1. 授業概要

指定テキストを用いて、問題文の精読を行い、演習問題を解いていく。それによって、高校卒業レベルの英文読解力を修得することが目標である。

2. 授業計画

(1時限 50 分×授業回数 30 回 = 総授業時数 1500 分)

1	1～3回 インTRODクシヨソ
2	4～6回 英文読解演習 (MATERIAL1・2)
3	7～9回 英文読解演習 (MATERIAL3・4)
4	10～12回 英文読解演習 (MATERIAL5・6)
5	13～15回 英文読解演習 (MATERIAL7・8)
6	16～18回 英文読解演習 (MATERIAL9・10)
7	19～21回 英文読解演習 (MATERIAL11・12)
8	22～24回 英文読解演習 (MATERIAL13・14)
9	25～27回 英文読解演習 (MATERIAL15・16)
10	28～30回 英文読解演習 (MATERIAL17・18)
11	31～33回 英文読解演習 (MATERIAL19・20)

3. 評価方法

原則として、出席点60%+期末試験40%で評価する。

4. テキスト・参考文献等 (書名・著者名・出版社)

書 名	著 者 名	出 版 社
入試英文精読の極意	丹羽裕子	研究社

5. その他・特記事項

科目名	英語A		教員名	儀武 玄秀	配当年次	1年
実務教員	—	実務教員の紹介				

1. 授業概要

指定テキストを用いて、各Unitごとに①内容説明→②問題演習・解答→③重要事項定着トレーニング、という順番で英文法・語法の学習を進める。また、進行状況に応じ、サブテキスト等を用いて単語・熟語の学習も行う。以上により、高校卒業レベルの英語力を修得することが目標である。

2. 授業計画

(1時限 50 分×授業回数 28 回 = 総授業時数 1400 分)

1	1～3回	イントロダクション
2	4～6回	文型と動詞・時制
3	7～9回	助動詞
4	10～12回	受動態
5	13～15回	仮定法
6	16～18回	不定詞
7	19～21回	動名詞・分詞
8	22～24回	前置詞
9	25～27回	疑問詞・関係詞
10	28～30回	接続詞
11	31～33回	比較

3. 評価方法

原則として、出席点60%+期末試験40%で評価する。

4. テキスト・参考文献等 (書名・著者名・出版社)

書 名	著 者 名	出 版 社
英文法・語法SWing	米山達郎・佐藤進二	Gakken

5. その他・特記事項

科目名	自然科学Ⅰ（物理）		教員名	儀武 玄秀	配当年次	1年
実務教員	—	実務教員の紹介				

1. 授業概要

まず、指定テキストを用いて基本事項の解説を行い、併せて例題を解いていく。その後、公務員試験の過去問を用いて演習を行う。
この過程を通じて、公務員試験に合格するための物理の知識を習得する。

2. 授業計画

（1時限 50 分×授業回数 29 回＝総授業時数 1450 分）

1回 イントロダクション
2～10回 力と運動
11～13回 エネルギー
14～16回 中間試験・解説
17～19回 波動
20～22回 電気物理学
23～25回 原子と原子核
26～27回 まとめ・期末試験準備
28～29回 期末試験・解説

3. 評価方法

原則として、出席点60%＋期末試験40%で評価する。

4. テキスト・参考文献等（書名・著者名・出版社）

公務員試験 地方初級・国家一般職（高卒者）テキスト 自然科学 第3版／TAC株式会社／TAC出版

5. その他・特記事項

科目名	刑法総論		教員名	儀武 玄秀	配当年次	3年
実務教員	—	実務教員の紹介				

1. 授業概要

オンデマンド講義の視聴に沿って、刑法総論の重要論点について補足・解説を行う。また、適宜質疑応答を行っていく。

2. 授業計画

(1時限 50 分×授業回数 54 回 = 総授業時数 2700 分)

1～3回 イン트로ダクション
4～6回 第1単元 刑法の基礎
7～9回 第2単元 刑法理論と指導原則
10～12回 第3単元 犯罪論・構成要件論 (1)
13～15回 第4単元 構成要件論 (2)
16～18回 第5単元 違法論 (1)
19～21回 第6単元 違法論 (2)
22～24回 第7単元 責任論 (1)
25～27回 第8単元 責任論 (2)
28～30回 第9単元 未遂犯論
31～33回 第10単元 共犯論 (1)
34～36回 第11単元 共犯論 (2)・罪数論・競合論
37～39回 まとめ
40～54回 過去問演習等

3. 評価方法

原則として、出席点で評価する。

4. テキスト・参考文献等 (書名・著者名・出版社)

オンデマンド講義レジュメ、コンパクト刑法総論／只木誠／新世社

5. その他・特記事項

科目名	刑法各論		教員名	儀武 玄秀	配当年次	3年
実務教員	—	実務教員の紹介				

1. 授業概要

オンデマンド講義の視聴に沿って、刑法各論の重要論点について補足・解説を行う。また、適宜質疑応答を行っていく。

2. 授業計画

(1時限 50 分×授業回数 57 回 = 総授業時数 2850 分)

1～3回 イントロダクション
4～6回 第1単元 各論の世界に入る前に
7～9回 第2単元 殺人罪 (1)
10～12回 第3単元 殺人罪 (2)
13～15回 第4単元 傷害罪 (1)
16～18回 第5単元 傷害罪 (2)
19～21回 第6単元 自動車運転による罪、遺棄・脅迫・強要罪
22～24回 第7単元 性的自由に対する罪、住居侵入罪
25～27回 第8単元 名誉に対する罪
28～30回 第9単元 財産罪総説
31～33回 第10単元 窃盗・強盗・事後強盗罪
34～36回 第11単元 詐欺・恐喝・器物損壊・放火罪
37～39回 まとめ
40～57回 過去問等演習

3. 評価方法

原則として、出席点で評価する。

4. テキスト・参考文献等 (書名・著者名・出版社)

オンデマンド講義レジュメ、刑法各論 (第3版) / 高橋則夫 / 成文堂

5. その他・特記事項

科目名	刑事訴訟法		教員名	儀武 玄秀	配当年次	3年
実務教員	—	実務教員の紹介				

1. 授業概要

オンデマンド講義の視聴に沿って、刑事訴訟法の重要論点について補足・解説を行う。また、適宜質疑応答を行っていく。

2. 授業計画

(1時限 50 分×授業回数 60 回 = 総授業時数 3000 分)

1～3回 イン트로ダクション
4～6回 第1単元 刑事手続の全体像・刑事手続の型
7～9回 第2単元 身柄拘束手続
10～12回 第3単元 取調べ・捜査段階の弁護権
13～15回 第4単元 捜索・押収
16～18回 第5単元 職務質問・所持品検査・任意処分と強制処分
19～21回 第6単元 排除法則
22～24回 第7単元 公訴提起・公判前整理手続・公判の原則
25～27回 第8単元 訴因制度
28～30回 第9単元 自白法則、補強法則
31～33回 第10単元 伝聞法則
34～36回 第11単元 刑事手続改革の動向
37～39回 まとめ
40～60回 過去問演習

3. 評価方法

原則として、出席点で評価する。

4. テキスト・参考文献等 (書名・著者名・出版社)

オンデマンド講義レジュメ、プライマリー刑事訴訟法(第6版)／椎橋隆幸／信山社

5. その他・特記事項

科目名	公務員試験対策Ⅲ (経済学)		教員名	儀武 玄秀	配当年次	3年
実務教員	—	実務教員の紹介				

1. 授業概要

まず、ミクロ経済学の基本事項に関する概説を行い、次に、マクロ経済学の基本事項に関する概説を行う。

演習を含めて本格的な学習は4年次の経済科目で行うので、本科目で取り扱う内容は基本事項に限る。

2. 授業計画

(1時限 50 分×授業回数 36 回 = 総授業時数 1800 分)

1～3回 イントロダクション

4～15回 ミクロ経済学

16～18回 中間試験・解説

19～33回 マクロ経済学

34～36回 期末テスト・解説

3. 評価方法

原則として、出席点60%+中間・期末試験40%で評価する。

4. テキスト・参考文献等 (書名・著者名・出版社)

公務員試験最初でつまづかない経済学 ミクロ編・マクロ編／村尾英俊／実務教育出版

5. その他・特記事項

科目名	刑事政策		教員名	儀武 玄秀	配当年次	4年
実務教員	—	実務教員の紹介				

1. 授業概要

オンデマンド講義の視聴に沿って、刑事政策の概要について補足・解説を行う。また、適宜質疑応答を行っていく。

2. 授業計画

(1時限 50 分×授業回数 60 回 = 総授業時数 3000 分)

1～3回 イン트로ダクション
4～6回 第1単元 刑事政策全般・日本の犯罪情勢
7～9回 第2単元 刑事司法手続・犯罪者処遇の流れ
10～12回 第3単元 DV・ストーカー・児童虐待
13～15回 第4単元 少年非行・高齢者犯罪・精神障害者犯罪
16～18回 第5単元 企業犯罪・交通犯罪
19～21回 第6単元 消費者事犯・特殊詐欺
22～24回 第7単元 組織犯罪・薬物犯罪・マネーロンダリング
25～27回 第8単元 サイバー犯罪・国際テロ
28～30回 第9単元 犯罪学・犯罪原因論・刑罰論
31～33回 第10単元 犯罪予防・犯罪被害者支援
34～36回 第11単元 再犯防止施策
37～39回 まとめ
40～60回 過去問演習

3. 評価方法

原則として、出席点で評価する。

4. テキスト・参考文献等 (書名・著者名・出版社)

オンデマンド講義レジュメ、刑事政策 (第2版) / 川出敏裕・金光旭 / 成文堂

5. その他・特記事項

科目名	公務員試験対策 (経済学)		教員名	儀武 玄秀	配当年次	4年
実務教員	—	実務教員の紹介				

1. 授業概要

まず、ミクロ経済学の基本事項に関する概説及び確認テストを行い、次に、マクロ経済学の基本事項に関する概説及び確認テストを行う。
その後、公務員試験の過去問題集を用いて演習を行う。この過程を通じて、公務員試験に合格するための知識を習得する。

2. 授業計画

(1時限 50 分×授業回数 93 回 = 総授業時数 4650 分)

1～3回 イントロダクション
4～33回 ミクロ経済学
34～36回 確認テスト・解説
37～66回 マクロ経済学
67～69回 確認テスト・解説
70～90回 問題演習
91～93回 期末テスト・解説

3. 評価方法

原則として、出席点60%+期末試験40%で評価する。

4. テキスト・参考文献等 (書名・著者名・出版社)

公務員試験最初でつまづかない経済学 ミクロ編・マクロ編／村尾英俊／実務教育出版
公務員試験過去問トレーニング 伊藤塾のこれで完成！経済学／伊藤塾

5. その他・特記事項

科目名	中国語Ⅰ		教員名	福里律子	配当年次	1年
実務教員	○	実務教員の紹介	中国に2年間留学し、帰国後は日本語学校に勤務し、来日を希望する中国人留学生たちの申請書類の翻訳業務などに従事しました。専門学校での検定対策授業を担当したり、市民教室などで初心者向けの講座や中国や台湾に旅行へ行きたい方々への個人レッスンの経験もあります。言葉と言うのはその国の文化や歴史と密接に関係しており、同じ漢字圏でも表現には違いがあるということを皆さんに知っていただけたらと思います。			

1. 授業概要

中国語を学ぶ上で重要な「ピンイン」の声調を理解させ、発音を強化させる。発音をじっくり習得後に、基本的な文型を学び、最終的に4技能（読む・聞く・話す・書く）を習得させる。5課毎終了時に復習・小テストを行う。

基本的な文法の復習を行い、再度発音の確認を行う。その後は少しレベルを上げて学んだ基本文型に加えて、短文からより作りこんだ文章を作る練習をしたり、読解することができるようにする。

2. 授業計画 (1時限 50 分×授業回数 97 回＝総授業時数 4850 分) 6単位

1	イントロダクション、発音①（単母音・複母音、声調）、数字・時間・日にち	21	第22課② 期間を表す名詞、動態助詞「了」、第23課① 招く「好」（結果補語）、副詞「就」「才」、方向補語
2	発音②（子音、無気音・有気音、そり舌音）、第1課 挨拶（1）	22	第23課② 招く「好」（結果補語）、副詞「就」「才」、方向補語、第24課① 残念「让」兼語文、「是不是」
3	発音③（鼻音をとまなう母音、-n・-ng）、第2課 挨拶（2）	23	第24課② 残念「让」兼語文、「是不是」、第25課① 称赞 文型「又…又…」、複文「要是…就」
4	発音④（声調の変化、軽声、r化）、第3課 挨拶（3）	24	第25課② 称赞 文型「又…又…」、複文「要是…就」、復習（五）
5	発音復習、第4課 初めて会う（1）疑問文、-吗？、疑問詞	25	第26課 祝贺 結果補語「开」「下」、可能補語、第27課① 忠告 「有点儿」、存現文
6	第5課 初めて会う（2）動詞述語文、A的B、A是B	26	第27課② 忠告 「有点儿」、存現文、第28課① 比較 「比」比較文、数量補語、「多」概数
7	復習（一）、第6課 尋ねる（1）名詞述語文、一、好吗？	27	第28課② 比較 「比」比較文、数量補語、「多」概数、第29課① 趣味 「有」「没有」比較文、時量補語、「把」
8	第7課 尋ねる（2）「有」文、介詞、第8課 尋ねる（3）時間詞	28	第29課② 趣味 「有」「没有」比較文、時量補語、「把」、第30課① 言葉 時量補語、「除了…以外」
9	第9課 尋ねる（3）連動文、連用修飾語	29	第30課② 言葉 時量補語、「除了…以外」、復習（六）
10	第10課 尋ねる（4）方位詞、復習（二）、復習（二）	30	中間試験
11	中間試験、第11課 必要（1）語気助詞「了」①、重ね型動詞	31	第31課 旅行（1）方向補語、「不是…吗？」反語文
12	第12課 必要（2）主述述語文、能願動詞①	32	第32課 旅行（2）動作の持続、結果補語「见」、第33課① 旅行（3）形容詞の重ね型、可能補語
13	第13課 必要（3）二重目的語、能願動詞②、数量詞	33	第34課 診察を受ける 「吧」文、「一…就…」、第35課① お見舞い 受動文
14	第14課 必要（4）兼語文、語気助詞「了」②	34	第35課② お見舞い 受動文、復習（七）
15	第15課 必要（5）結果補語、介詞「给」	35	第36課 時量補語、「有的…有的…」、第37課① 送別会 「虽然…但是…」、「把」文②
16	復習（三）、第16課 約束（1）「过」、还没（有）…呢	36	第37課② 送別会 「虽然…但是…」、「把」文②、第38課① 託送 「不但…而且…」可能補語「动」
17	第17課 必要（2）選択疑問文、方向補語、第18課 迎える（1）要…了、是…的	37	第38課② 託送 「不但…而且…」可能補語「动」、第39課① 送別（1）動作の持続と進行
18	第19課 迎える（2）「」「在」の目的語、同僚補語	38	第39課② 送別（1）「不知」比較文、第40課① 送別（2）「把」文③、「…了…就…」
19	第20課 招待する 程度補語、復習（三）	39	第40課② 送別（2）「把」文③、「…了…就…」
20	第21課 招く「在」（動作の進行形）、第22課① 期間を表す名詞、動態助詞「了」	40	期末試験

3. 評価方法

中間試験、期末試験：60％、発音試験（40％）

4. テキスト・参考文献等（書名・著者名・出版社）

中国語会話301上下（語文研究社）＋HSKテキスト2級
中国語検定HSK3級過去問集（SPRIX）、必ず話せる中国語入門（主婦の友社）

5. その他・特記事項

中国語検定HSK3級合格のための基礎力向上を目指し、学習意欲をしっかりと持ち授業に挑んでほしいです。